

3 市民等アンケート調査結果

●市民アンケート調査結果

1. 調査概要

1) 調査の目的

市民アンケートは、ごみの減量化や資源化、リサイクルに対する関心度、実際の取組や各施策の認知度について調査を行い、現状の把握や市民の意見、行政への要望等を把握しました。

2) 調査対象、調査期間

草津市内に在住する満18歳以上の市民3,000人（令和元（2019）年12月1日現在の住民基本台帳から無作為抽出）を対象としました。

実施期間は以下のとおりです。

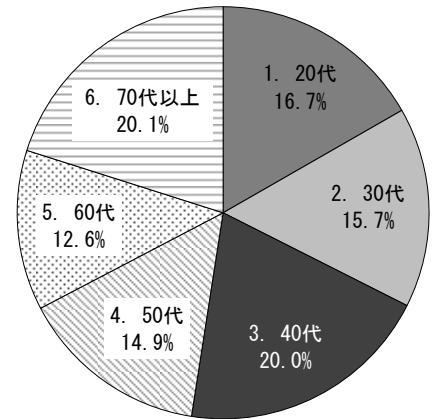
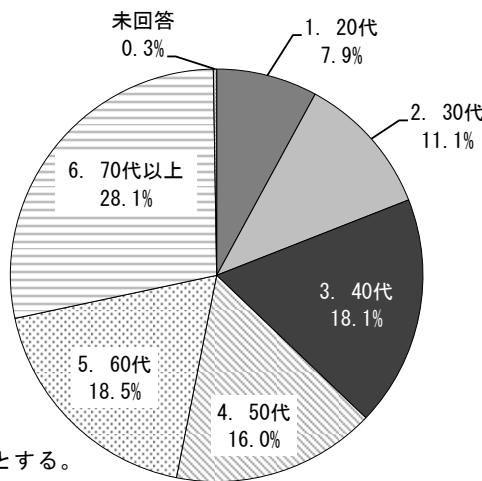
調査開始日	2019年12月7日（土）
回答締切日	2019年12月25日（水）（12月27日（金）到着分）

3) 回収結果（回答数：1,160件、回答率：38.7%）※回答数のうち88件はインターネット回答者

① 年齢

	回答数
1. 20代※	92
2. 30代	129
3. 40代	210
4. 50代	185
5. 60代	215
6. 70代以上	326
未回答	3
合計	1,160

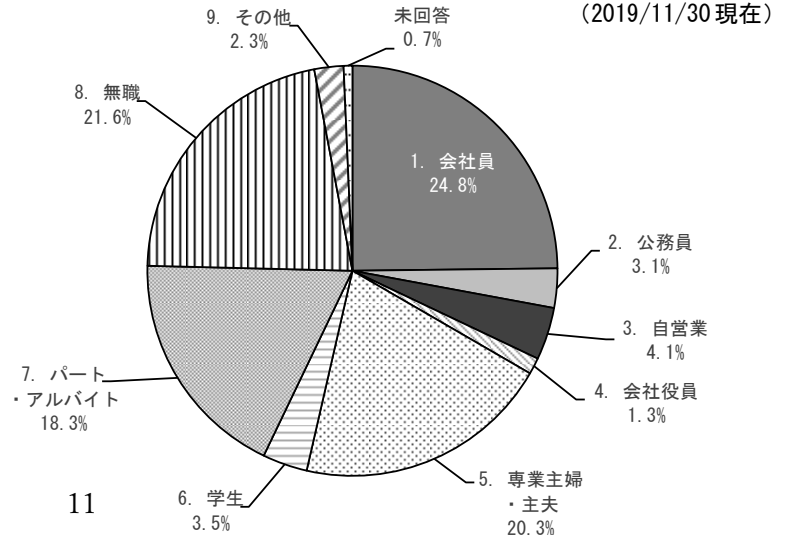
※20代には18歳、19歳も含めるものとする。



② 職業

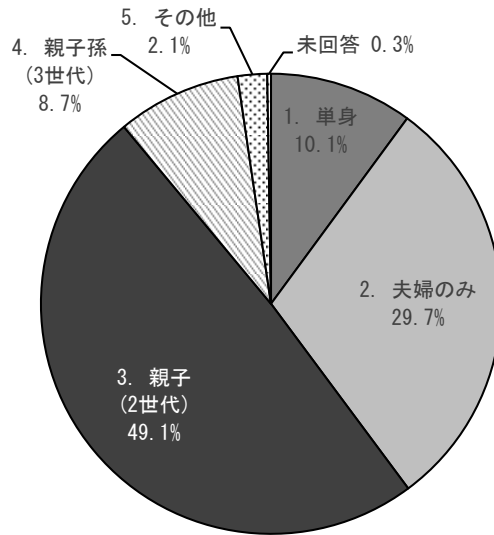
	回答数
1. 会社員	288
2. 公務員	36
3. 自営業	48
4. 会社役員	15
5. 専業主婦・主夫	235
6. 学生	41
7. パート・アルバイト	212
8. 無職	251
9. その他	26
未回答	8
合計	1,160

回答者の年齢構成



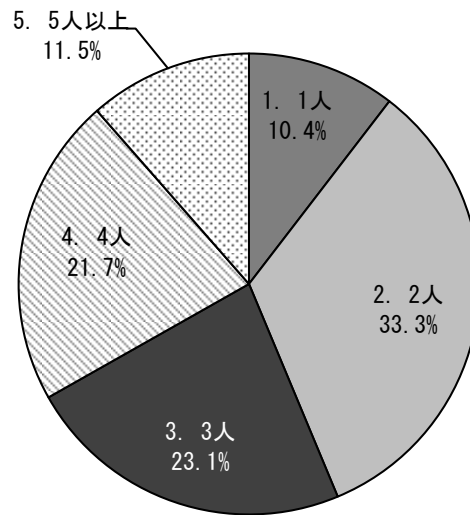
③ 世帯構成

	回答数
1. 単身	117
2. 夫婦のみ	345
3. 親子(2世代)	570
4. 親子孫(3世代)	101
5. その他	24
未回答	3
合計	1,160



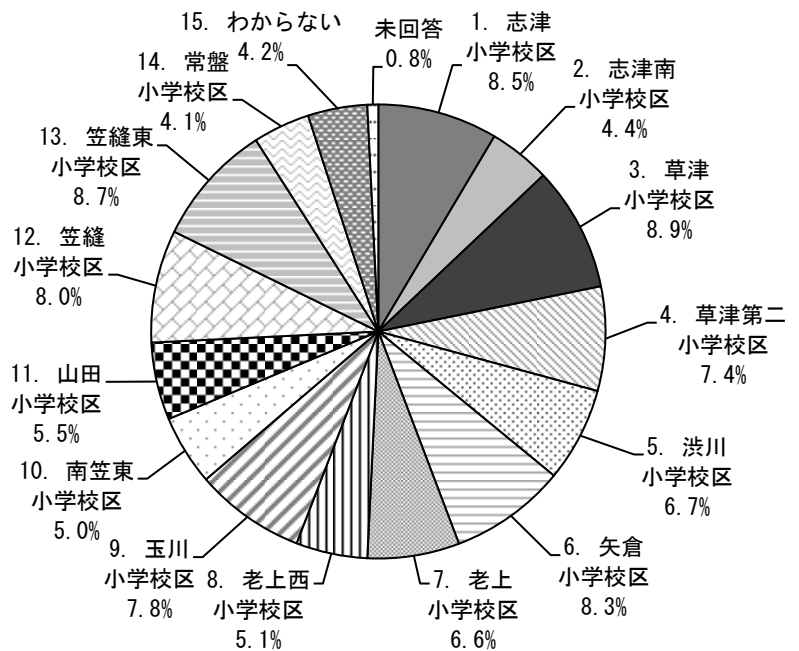
④ 世帯人数

	回答数
1. 1人	121
2. 2人	386
3. 3人	268
4. 4人	252
5. 5人以上	133
未回答	0
合計	1,160



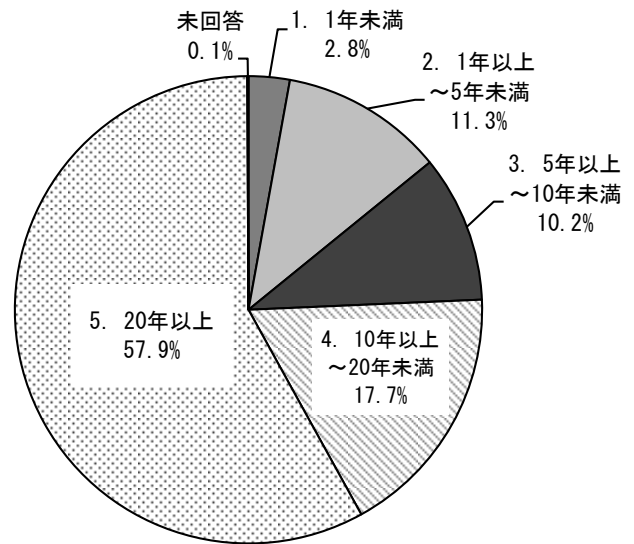
⑤ 居住地区

	回答数
1. 志津小学校区	99
2. 志津南小学校区	51
3. 草津小学校区	103
4. 草津第二小学校区	86
5. 洪川小学校区	78
6. 矢倉小学校区	96
7. 老上小学校区	76
8. 老上西小学校区	59
9. 玉川小学校区	91
10. 南笠東小学校区	58
11. 山田小学校区	64
12. 笠縫小学校区	93
13. 笠縫東小学校区	101
14. 常盤小学校区	47
15. わからない	49
未回答	9
合計	1,160



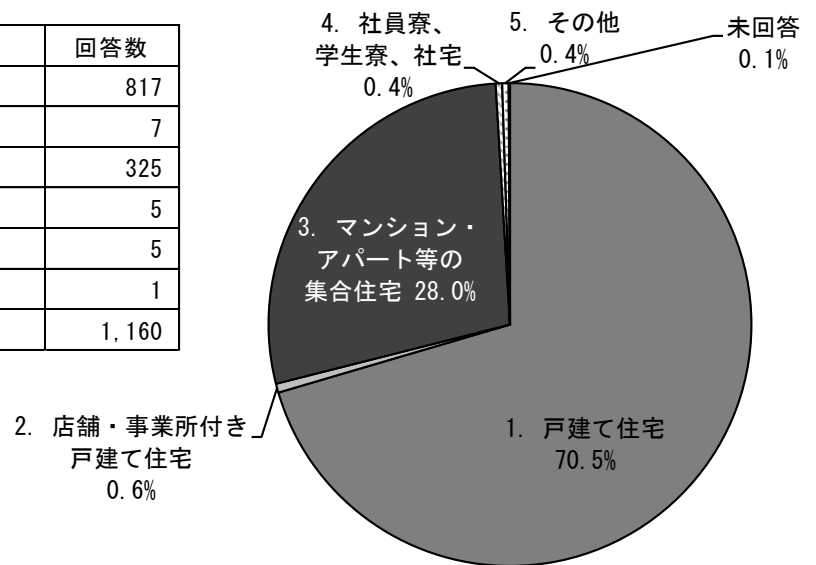
⑥ 居住年数

	回答数
1. 1年未満	33
2. 1年以上～5年未満	131
3. 5年以上～10年未満	118
4. 10年以上～20年未満	205
5. 20年以上	672
未回答	1
合計	1,160



⑦ 居住形態

	回答数
1. 戸建て住宅	817
2. 店舗・事業所付き戸建て住宅	7
3. マンション・アパート等の集合住宅	325
4. 社員寮、学生寮、社宅	5
5. その他	5
未回答	1
合計	1,160

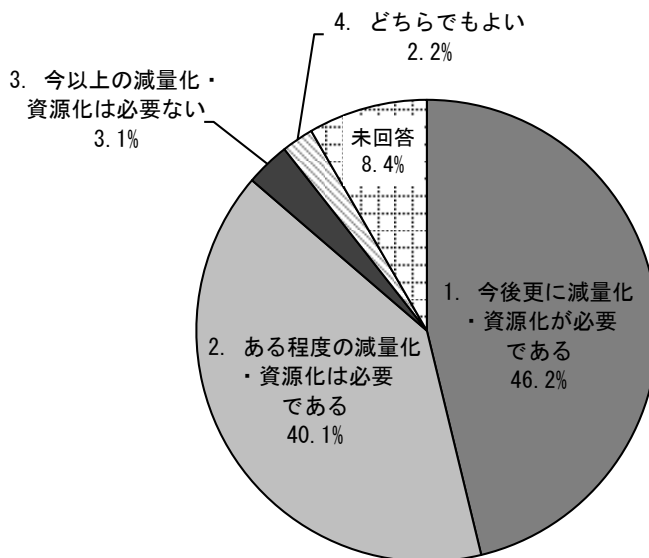


【1. ごみの減量化・資源化について】

目的 ごみの減量化等に対する意識を調査・把握する。回答者属性とのクロス分析によりターゲットを絞り、施策につなげる。

問1 資源の有効利用、ごみの最終処分場（埋立地）の問題、ごみ処理経費の低減などの観点から、ごみの減量等が必要だと言われていますが、あなたは、ごみの減量化、資源化についてどう思いますか。（○は1つ）

	回答数
1. 今後更に減量化・資源化が必要である	536
2. ある程度の減量化・資源化は必要である	465
3. 今以上の減量化・資源化は必要ない	36
4. どちらでもよい	26
未回答	97
合計	1,160



【結果概要】

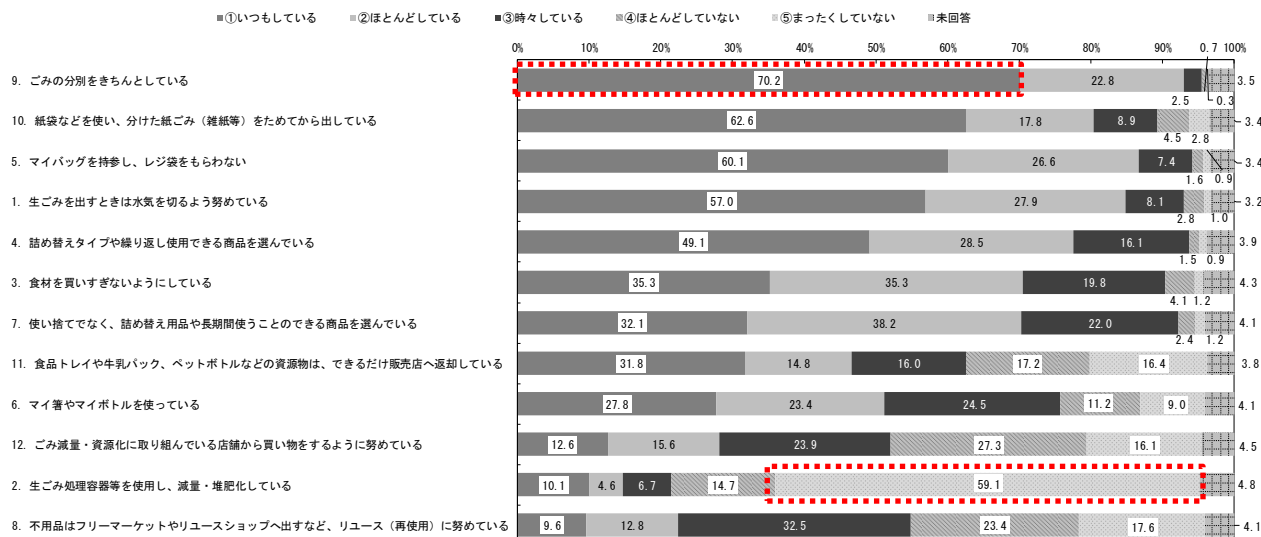
「1. 今後更に必要である」が46.2%と最も高く、次いで「2. ある程度必要である」が40.1%となっています。これらを合わせると86.3%となり、多くの市民の方がごみの減量化・資源化が必要だと考えています。一方で、「3. 今以上必要ない」、「4. どちらでもよい」合わせて約5%の方は、特にごみの減量化・資源化の必要性を感じていないといった結果となりました。

【2. ごみの減量化・資源化の取り組みについて】

目的

ごみの減量化等に対する実際の取り組みを調査・把握する。取組ごとの回答結果や回答者属性とのクロス分析により、ターゲットを絞り、施策につなげる。

問2 ごみの減量化、資源化に関する以下の各項目について、どの程度取り組んでいますか？
あてはまるものをそれぞれ1つ選び、該当する数字に○をしてください。



【結果概要】

「いつもしている」という回答が最も多かったのは、「9. ごみの分別」で70.2%、一方、「まったくしていない」という回答が最も多かったのは、「2. 生ごみ処理容器」で59.1%でした。

選択肢の「時々している（表中黒色）」が中央より右にある項目は比較的取り組みが進んでおり、左にあるものはあまり進んでいないことが読み取れます。

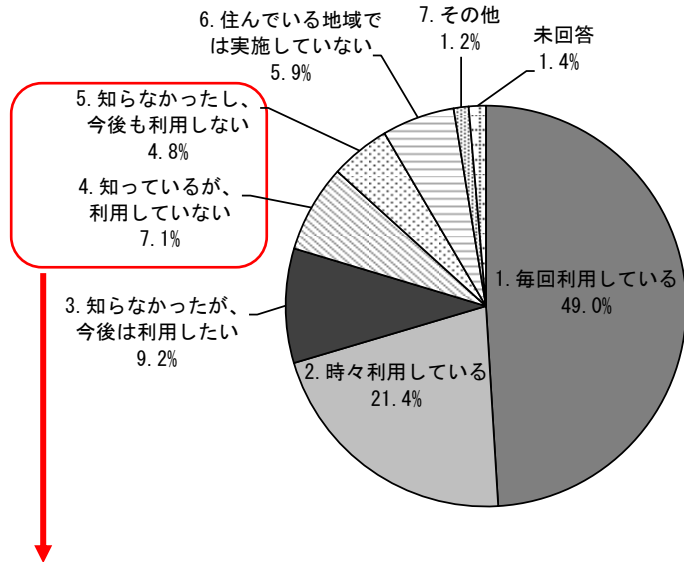
【3. 資源回収活動の利用状況について】

目的

- ・近年減少傾向にある資源回収活動の利用状況や認知度について把握する。
- ・利用しない方の理由を把握し、回収量の増加（資源化率の向上）につながるよう検討する。

問3-1 町内会やPTA、子ども会などが行う資源回収を利用していますか。(〇は1つ)

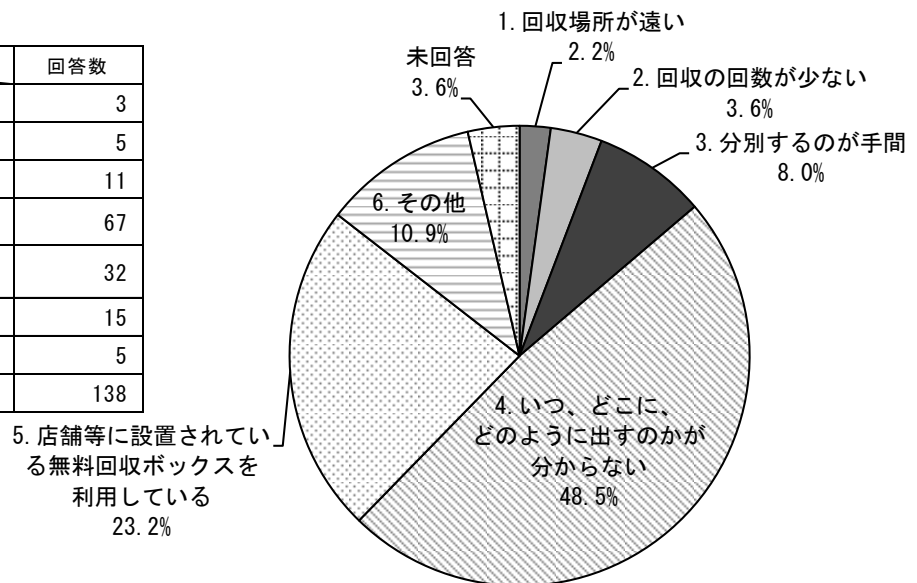
	回答数
1. 毎回利用している	569
2. 時々利用している	248
3. 知らなかったが、今後は利用したい	107
4. 知っているが、利用していない	82
5. 知らなかったし、今後も利用しない	56
6. 住んでいる地域では実施していない	68
7. その他	14
未回答	16
合計	1,160



問3-2 問3-1で4、5に〇をつけた方にお聞きします。

その理由は、次のどれですか。(〇は1つ)

	回答数
1. 回収場所が遠い	3
2. 回収の回数が少ない	5
3. 分別するのが手間	11
4. いつ、どこに、どのように出すのが分からない	67
5. 店舗等に設置されている無料回収ボックスを利用している	32
6. その他	15
未回答	5
合計	138



【結果概要】

問3-1では「1. 毎回利用」、「2. 時々利用」合わせて約70%が資源回収活動を利用しています。

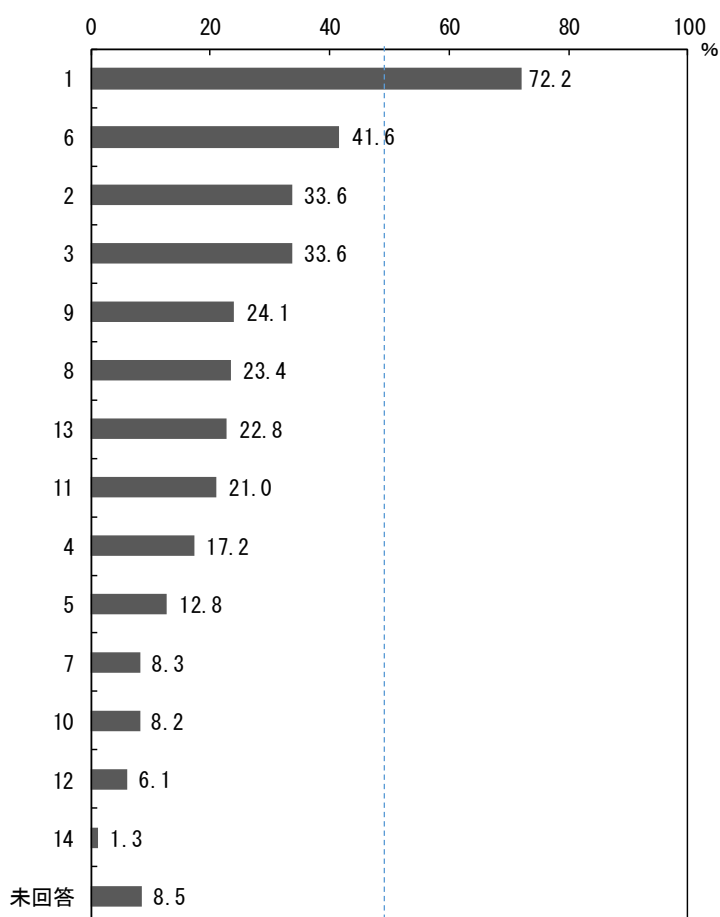
また、「4. 知っているが、利用していない」と「5. 知らなかったし、今後も利用しない」の約12%について、問3-2でその理由を調査したところ、約半数が「4. いつ、どこに、どのように出すのが分からない」ことを挙げています。次いで「5. 店舗等に設置されている無料回収ボックスを利用している」が23.2%となっています。

【4. 草津市の実施施策の周知について】

目的 ごみの施策の認知度を把握し、認知度の低いものの周知啓発方法を検討する。

問4 草津市が行っているごみの施策について、知っているものをすべてお選びください。
(○はいくつでも)

	回答数
1. 買い物袋持参運動の展開	837
6. クリーンセンターの見学	483
2. 資源回収活動への支援 (資源回収活動事業推進奨励金)	390
3. 生ごみ処理容器購入者への補助	390
9. 転入者への窓口説明	279
8. リサイクル家具抽選会	272
13. ごみ問題を考える草津市民会議との連携 (リサイクルフェア・市内一斉清掃など)	265
11. 団体によるボランティア活動への支援 (ごみ袋無料配付等)	244
4. 段ボールコンポストの実践普及啓発	200
5. 環境学習体験講座	148
7. クリーンセンターでのワークショップ	96
10. 事業所へのごみの分別、減量指導	95
12. 「3010運動+」の取組み (食品ロス削減啓発ちらしの配布)	71
14. その他	15
未回答	99
合計	3,884



【結果概要】

「1. 買い物袋持参運動の展開」が72.2%と最も多く、その他の施策については、50%未満の認知度となりました。

「7. クリーンセンターでのワークショップ」、「10. 事業所へのごみ分別、減量指導」、「12. 「3010運動+」の取組み」は、近年取り組みを始めたことから、他の施策と比べ認知度が低い結果となっています。

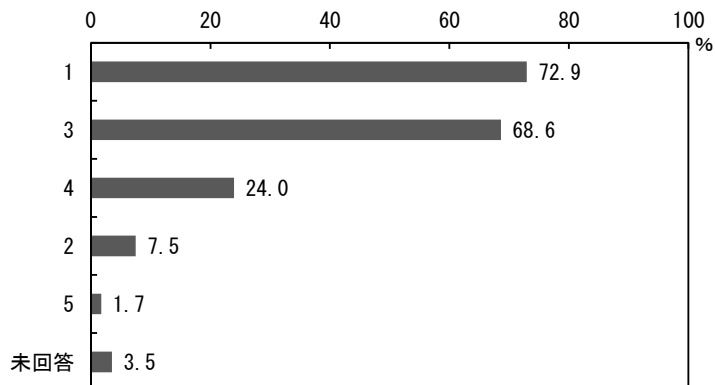
【5. 食品ロスについて】

目的

- ・国内外の潮流から、食品ロスについての認知度を把握する。
- ・食品ロスの発生理由を把握し、今後の施策展開の検討資料とする。

問5-1 食品ロスについて、該当するものをすべてお選びください。(〇はいくつでも)

	回答数
1. 食品ロスの言葉は聞いたことがある	846
3. 食品ロスが問題になっていることを知っている	796
4. フードバンク活動やフードドライブ活動を知っている	278
2. 食品ロスの言葉や意味も知らなかった	87
5. フードバンク活動やフードドライブ活動に参加したことがある	20
未回答	41
合計	2,068



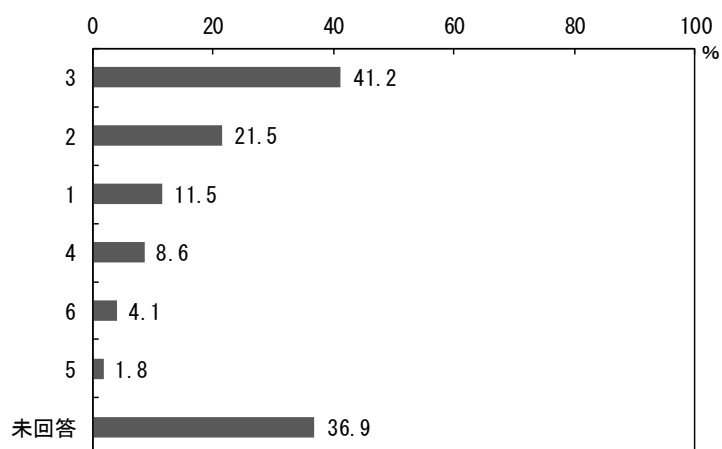
【結果概要】

「1. 食品ロスの言葉は聞いたことがある」が72.9%で「2. 知らなかった」という回答の7.5%を大きく上回っており、**食品ロスという言葉が浸透**しています。

また、食品ロスの認知度や問題意識は高いものの、「4. フードバンク活動やフードドライブ活動を知っている」は24.0%とやや低く、「5. 参加したことがある」は1.7%にとどまっています。

問5-2 日常生活で、食品ロスは出ますか。出る方は、その理由について、該当するものすべてをお選びください。(〇はいくつでも)食品ロスが出ない方は問6へお進みください。

	回答数
3. 買ったことを忘れ、賞味期限・消費期限切れになる	478
2. 野菜の皮等を剥きすぎてしまう	249
1. 食べ残しが多い	133
4. 買いすぎて食材を使い切れない	100
6. その他	47
5. 外食で注文しすぎる (食べきれない)	21
未回答	428
合計	1,456



【結果概要】

食品ロスが出る理由としては、「3. 買ったことを忘れ、賞味期限・消費期限切れになる」が41.2%と最も多く、次いで「2. 野菜の皮等を剥きすぎてしまう」が21.5%となっており、調理時より食品購入以降が食品ロスの発生理由として多く挙げられています。

なお、「未回答」の36.9%は、食品ロスが出ないと回答した方となっています。

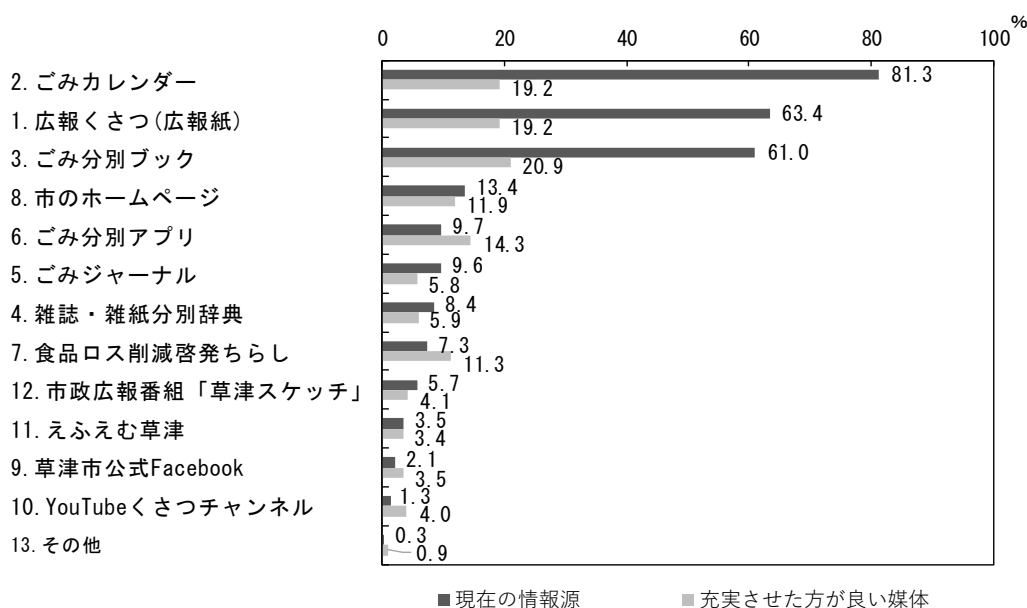
【6. ごみの減量化・資源化に関する情報入手方法について】

目的 市民のごみに関する情報収集手段について把握し、有用なものを継続し、効果の薄いものについて再検討する。

問6 次の情報媒体のうち、ごみの減量化、資源化などに関する情報を入手するための情報源として活用しているものについて、該当するものにすべて○をしてください。

また、今後情報を受け取る手段として、充実させた方が良いと思う媒体について、該当するものにすべて○をしてください。

	現在の情報源	充実させた方が 良い媒体
	回答数	
2. ごみカレンダー	943	223
1. 広報くさつ(広報紙)	735	223
3. ごみ分別ブック	708	243
8. 市のホームページ	156	138
6. ごみ分別アプリ	112	166
5. ごみジャーナル	111	67
4. 雑誌・雑紙分別辞典	98	69
7. 食品ロス削減啓発ちらし	85	131
12. 市政広報番組「草津スケッチ」	66	47
11. えふえむ草津	41	40
9. 草津市公式Facebook	24	41
10. YouTubeくさつチャンネル	15	46
13. その他	4	10



【結果概要】

情報源として活用しているものは「2. ごみカレンダー」が81.3%と最も多く、次いで「1. 広報くさつ(広報紙)」63.4%、「3. ごみ分別ブック」61.0%となっており、紙媒体による情報入手が多い状況です。

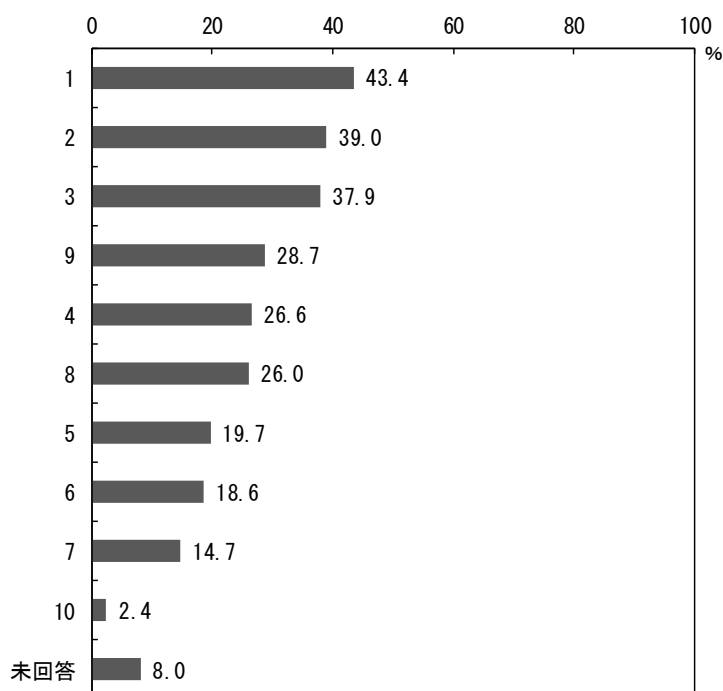
また、充実させたほうが良い媒体も回答数としては紙媒体が多くなっていますが、「6. ごみ分別アプリ」、「9. Facebook」、「10. YouTube」などで、充実させたほうが良い媒体との回答が現在の情報源との回答より多くなっており、電子媒体の充実も求められていることが分かります。

【7. ごみの減量化・資源化に関する知りたい情報について】

目的	市民のごみに関する情報のニーズを把握し、上位のものについてより積極的に発信するとともに、下位のものについても効果的な周知啓発方法を検討する。
----	--

問7 ごみの減量化、資源化などに関する情報について、もっと知りたい情報はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

	回答数
1. ごみの分別の種類や出し方	504
2. 家庭でできるごみ減量方法	452
3. 市内でリユース・リサイクル商品を取り扱っている店舗	440
9. ごみ処理にかかっている費用	333
4. 食品トレイ等の回収を行っているスーパー等やその回収品目	308
8. ごみや資源物のゆくえ	302
5. イベント等の開催情報(リサイクルフェアなど)	228
6. 市のごみに関する施策や補助制度(資源回収活動や生ごみ処理容器購入への補助など)	216
7. ごみや資源物の回収量	171
10. その他	28
未回答	93
合計	3,075



【結果概要】

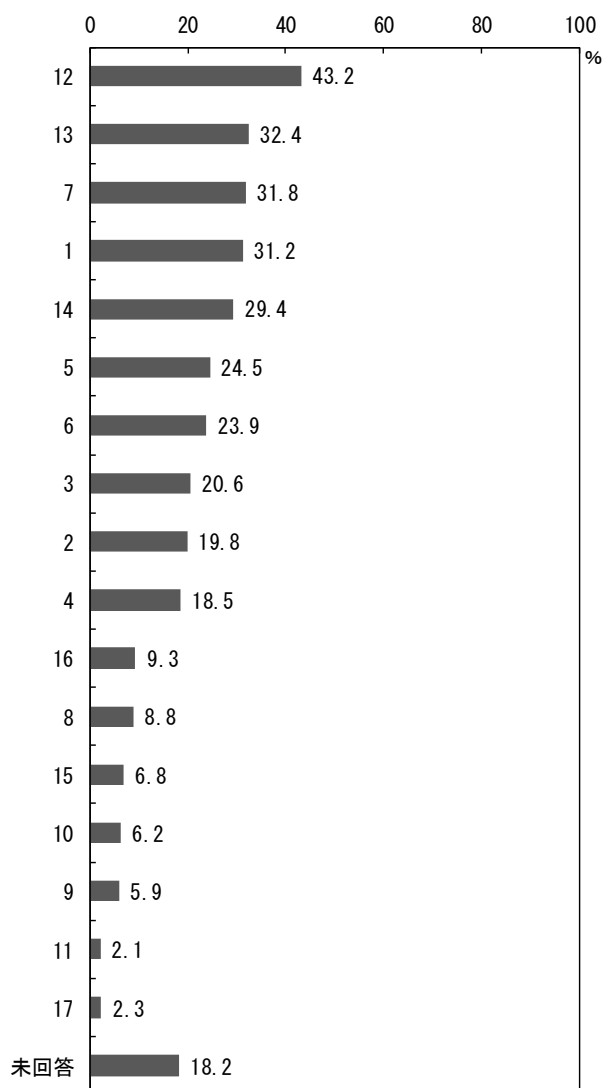
「1. ごみの分別の種類や出し方」という回答が 43.4%と最も多く、次いで「2. 家庭でできるごみ減量方法」が 39.0%、「3. 市内でリユース・リサイクル商品を取り扱っている店舗」が 37.9%であり、「7. ごみや資源物の回収量」などの情報に比べ、**個人で取り組めることや日常生活(ごみ出し・買い物等)に関わる内容に関心が持たれやすい傾向**にあります。

【 8. ごみの減量化・資源化を進めるための施策について】

目的 市民が必要と考えるごみに関する施策を把握し、上位のものについてより積極的に施策展開を検討するとともに、下位のものについても減量効果等を勘案しながら必要性やその効果を周知し、施策につなげていく。

問 8 さらにごみの減量化、資源化を進めていくためにはどのような行政の施策が必要だと思いますか。(特に重要と思われるものから○を5つまで)

	回答数
12. 分別が分かりにくいものを広報などで定期的に取り上げる	501
13. 衣類など、資源化できる品目を増やす	376
7. マイバッグ、マイボトル、マイ箸などの使用を促進する	369
1. 食べ残しを減らす等、ごみの減量のアイデアを募集し、紹介する	362
14. 店舗等に対し、簡易包装や量り売り、店頭回収の実施を働きかける	341
5. フリーマーケットなどの不用品交換イベントを促進する	284
6. リユースショップの情報や不用品を売買できるような情報を提供する	277
3. 生ごみ処理容器や段ボールコンポスト等をより広く周知し、利用者を拡大する	239
2. 生ごみの水切りをより広く周知する	230
4. フードバンク活動やフードドライブ活動を支援し、広く周知する	215
16. 町内会やマンションなど、地域における自主的な取組みを広める	108
8. ごみ袋を有料化する	102
15. ごみの分別や減量化、資源化について地域で勉強会を開くなど、学習の場を設ける	79
10. ごみ袋引換券配付枚数を減らす	72
9. ごみ袋の容量(大きさ)を小さくする	68
11. 収集日を減らす	24
17. その他	27
未回答	211
合計	3,885



【結果概要】

「12. 分別が分かりにくいものを広報などで定期的に取り上げる」が43.2%と最も多く、次いで「13. 衣類など、資源化できる品目を増やす」が32.4%、「7. マイバッグ、マイボトル、マイ箸などの使用を促進する」が31.8%、「1. 食べ残しを減らす等、ごみの減量のアイデアを募集し、紹介する」が31.2%、「14. 店舗等に対し、簡易包装や量り売り、店頭回収の実施を働きかける」が29.4%となっています。

特に重要と思われるもの上位5つを選択する設問ですが、特定の施策への集中は見られず、リデュース・リユースに関する選択肢である1~7および14、リサイクルに関する選択肢である12,13に回答が分散しています。なお、市民生活に直接影響のある選択肢である8~11の施策については、消極的な傾向がうかがえます。

【 9. ごみの分別について（その1）】

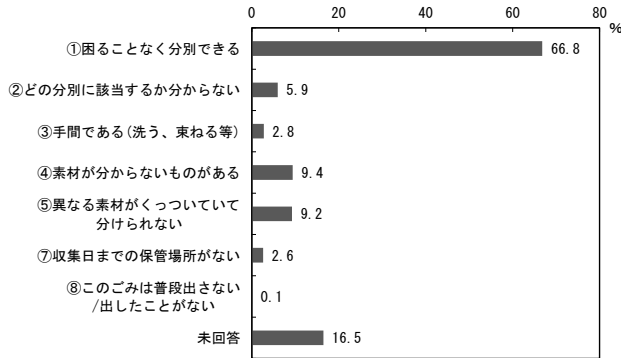
目的

市民のごみ分別に対する負担感や実際の分別行動、分別する際の課題を把握し、市民に周知すべき分別の注意点やさらに資源化できるごみ種について考察する。

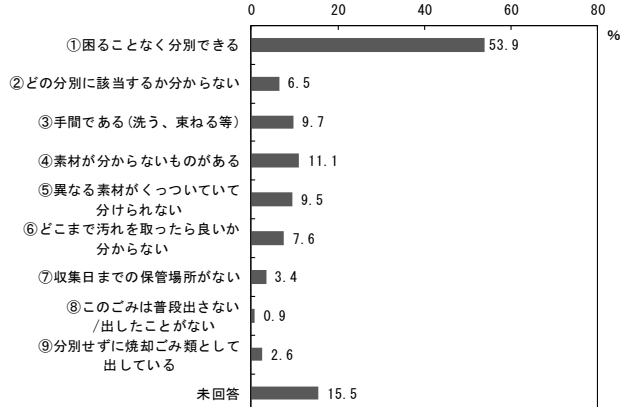
問9 現状の分別区分で、分別と排出の際に困っていることはありますか。

ある方は、あてはまるものをそれぞれお答えください。（それぞれ○は3つまで）

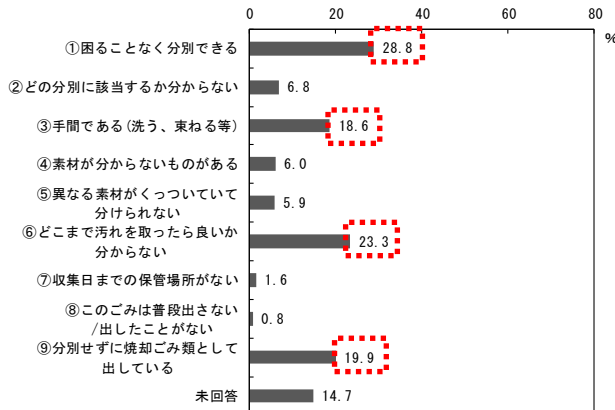
焼却ごみ類



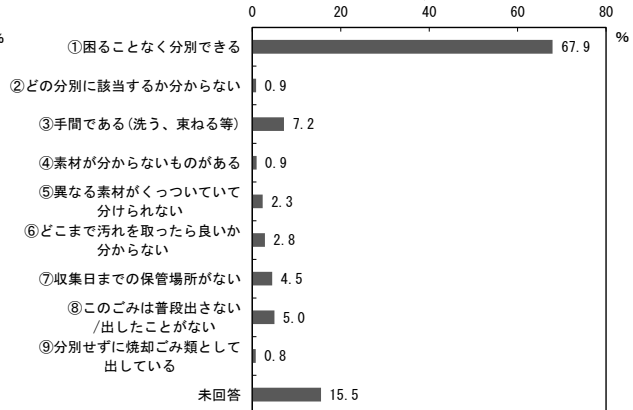
プラスチック製容器類(きれいな状態)



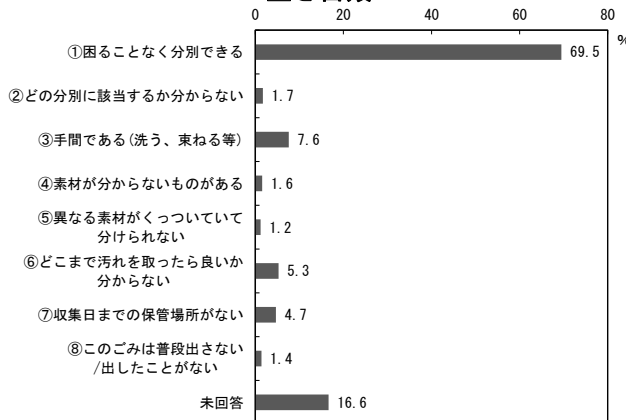
プラスチック製容器類(汚れている状態)



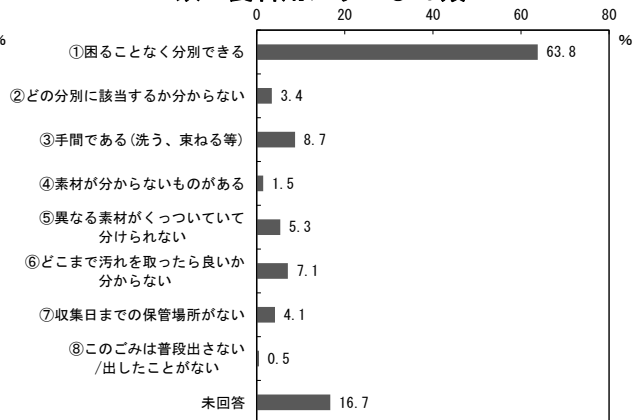
ペットボトル類



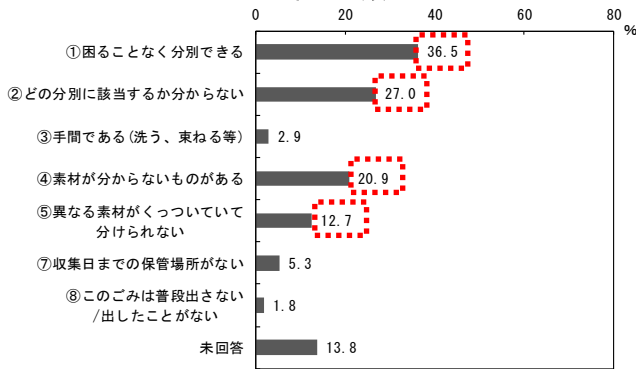
空き缶類



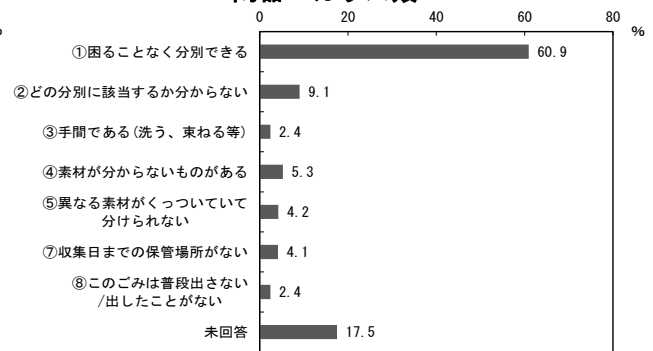
飲・食料用ガラスびん類



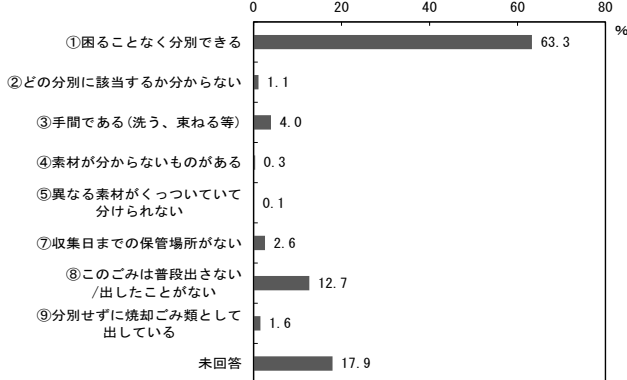
破碎ごみ類



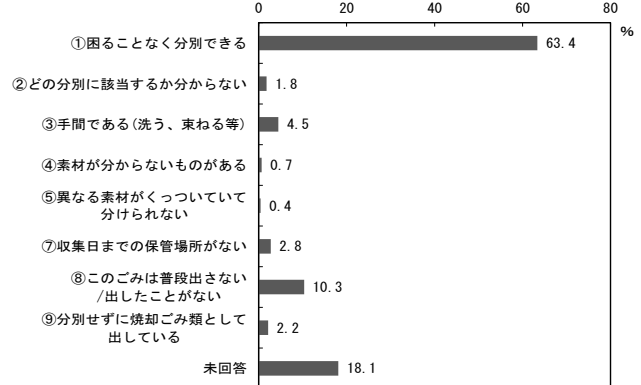
陶器・ガラス類



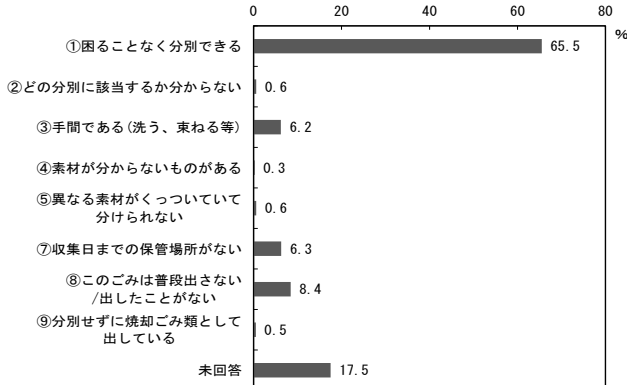
新聞・広告



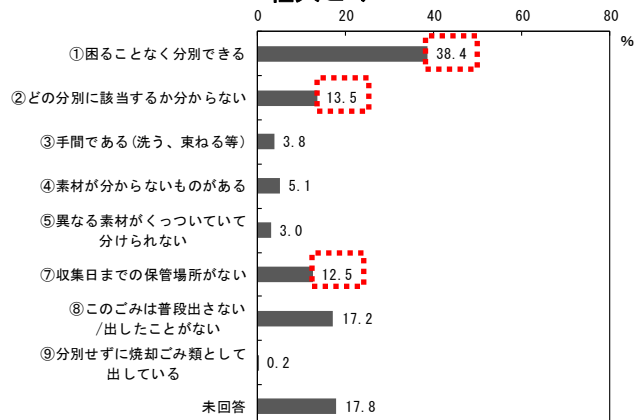
雑誌・雑紙



段ボール



粗大ごみ



【結果概要】

「プラスチック製容器類(汚れている状態)」、「破碎ごみ類」、「粗大ごみ」が、「困ることなく分別できる」割合が低く、分別に戸惑っていると考えられます。

理由として、「プラスチック製容器類(汚れている状態)」は、「どこまで汚れを取ったらよいか分からない」、「分別せずに焼却ごみ類として出している」、「手間である(洗う、束ねる等)」という意見が多く、**汚れの基準の判断**に戸惑う方が多いと考えられます。

「破碎ごみ類」は、「どの分別に該当するか分からない」、「素材が分からない」、「異なる素材がくっついていて分けられない」という意見が多く、**分別名称だけでは素材の判断がつかない**ため、戸惑う方が多いと考えられます。

「粗大ごみ」は「どの分別に該当するか分からない」、「収集日までの保管場所がない」という意見が多く、**大きさの基準**(50センチまたは10キロを超えるもの)が**十分浸透していない**ことや、大型であるため保管場所に困っていると考えられます。

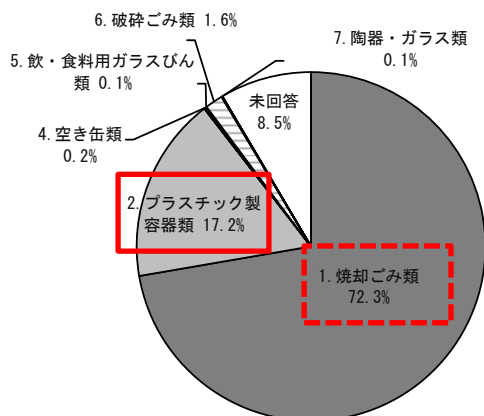
【 9. ごみの分別について（その2）】

目的 適正な排出割合を把握し、今後の分別啓発の参考とする。

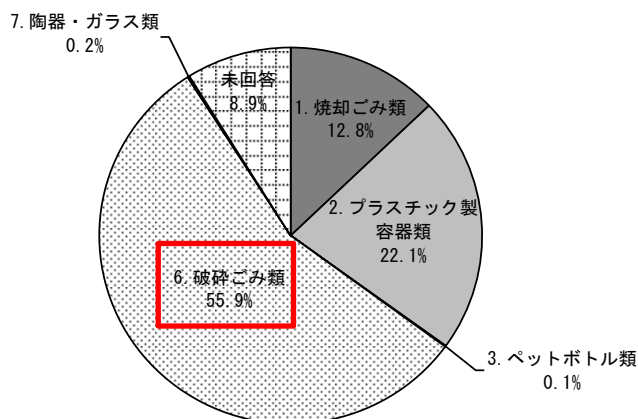
問10 具体的に①～⑩のごみを排出するときどの区分に分別していますか。あてはまるものに○を記入してください。（それぞれ○は1つ）

（が正解を示す。①におけるは汚れている（汚れが取れない）場合、③におけるは大きさによってそれぞれ正解である。）

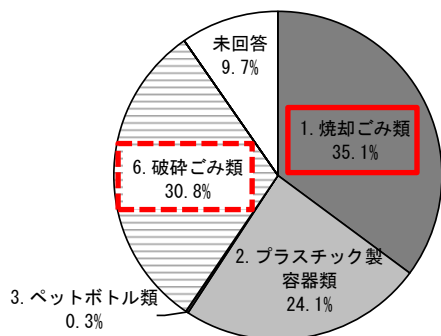
①調味料や歯磨き粉等のチューブ



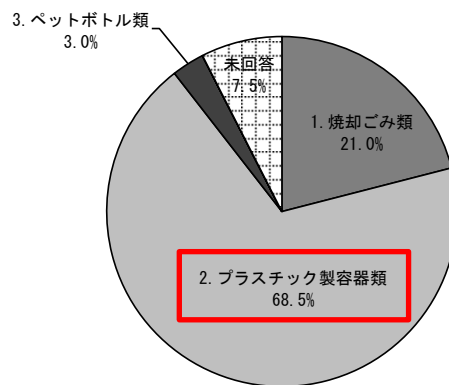
②プラスチック製バケツ・洗面器



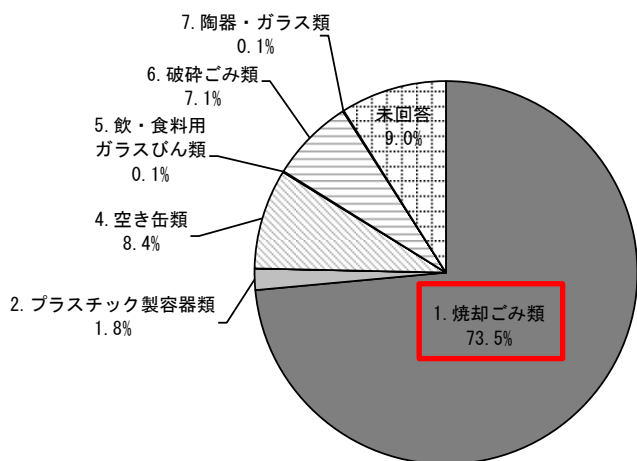
③プラスチック製ハンガー



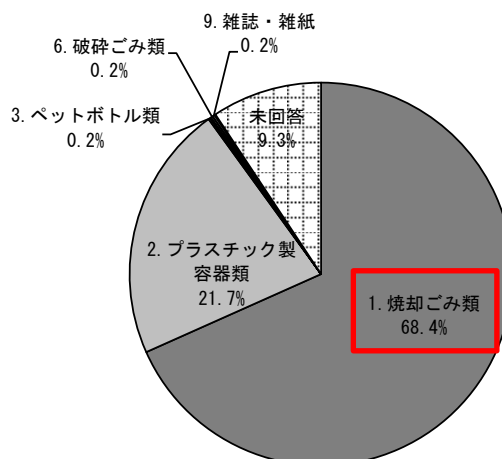
④ペットボトルのラベル



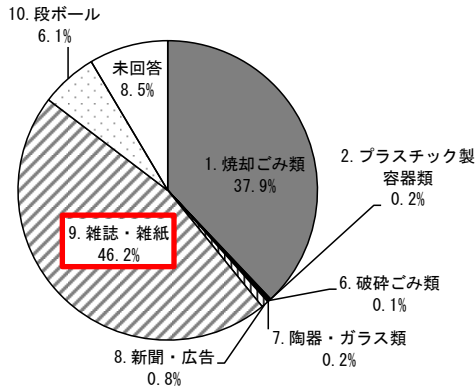
⑤アルミホイル



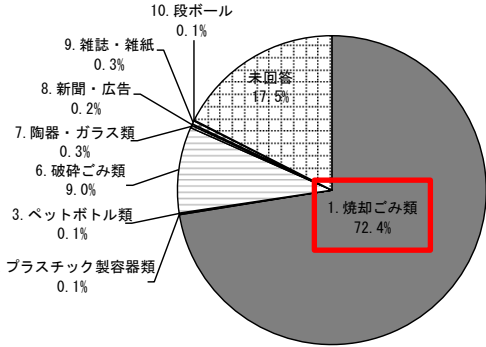
⑥家庭用ラップ



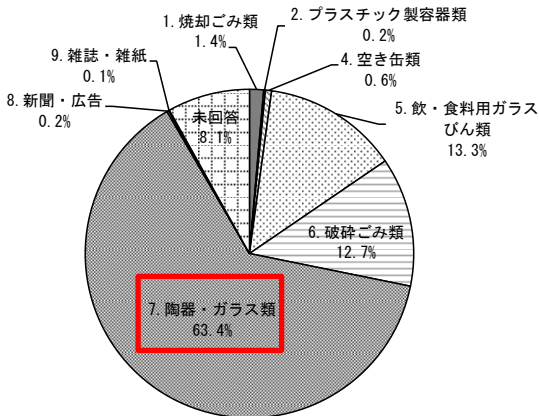
⑦紙製のお菓子の箱



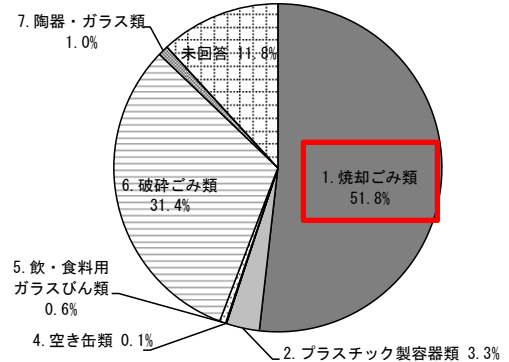
⑧ファスナーの付いた衣類



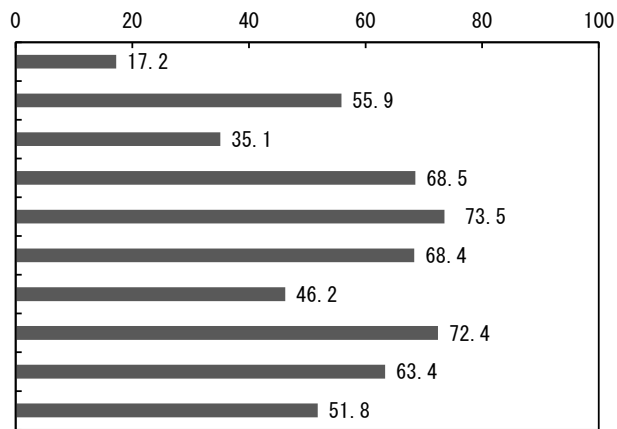
⑨化粧びん



⑩ゴムホース



正解率



左記グラフは、
部分のみ
 正解とし作成

【結果概要】

正しく分別されている割合が低い品目は、次のとおりです。

①調味料や歯磨き粉等のチューブ

正しくは、汚れを取り除いて「プラスチック製容器類」ですが、多くの方が、「焼却ごみ類」で出しています。多くの方が、**汚れを取り除くことに負担**を感じていると考えられます。

③プラスチック製ハンガー

正しくは、大きさによって「焼却ごみ類」・「破碎ごみ類」ですが、**プラスチック製品**であることから24.1%の方が、誤って「プラスチック製容器類」で出しています。

⑦紙製のお菓子の箱

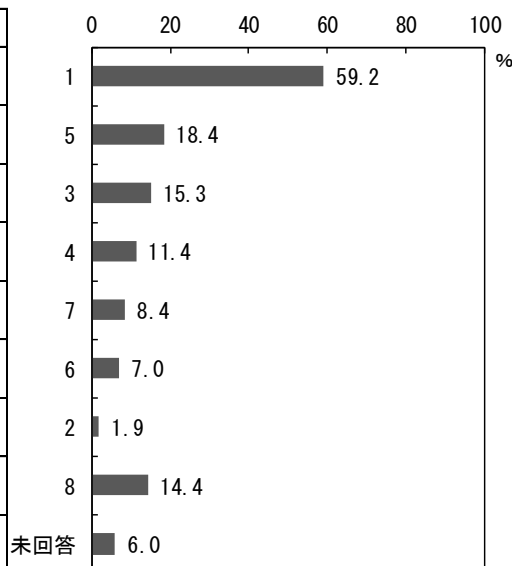
正しくは、「雑誌・雑紙」ですが、37.9%の方が「焼却ごみ類」で出しています。**雑紙としての認識が低いこと**や、**箱を開いたり、束ねたり、保管することに負担**を感じていると考えられます。

【10. ごみ袋引換券制度について】

目的	現行の引換券制度について市民が課題に感じていることを把握し、今後の引換券制度の検討にあたり参考とする。
----	---

問11-1 現在のごみ袋引換券配付制度についてどう思いますか？（○はいくつでも）

	回答数
1. 今のままでよい	687
5. 無料の範囲(135袋)を超えた場合のごみ袋の金額(1袋当たり110円)が高い	214
3. ごみ袋の大きさが1種類であり、不便である(小さいサイズが欲しい)	177
4. 2人世帯以上で袋の枚数が一定(135袋)であり、袋が不足している	132
7. ごみ袋代やごみ処理費用の一部として、ごみ袋1袋目から有料(8円～40円程度)としている自治体が多く、草津市もそのようにすべきである	98
6. 無料の範囲内(135袋以内)であれば減量するメリットが得られない	81
2. 引換券の受取方法や交換方法が分かりにくい	22
8. その他	167
未回答	70
合計	1,648



【結果概要】

現在のごみ袋引換券配付制度に対しては、「1. 今のままでよい」という回答が59.2%と最も多くなっています。一方、「2. 分かりにくい」は1.9%と低く、**現行の制度は市民に広く浸透している**と考えられます。

なお、「5. ごみ袋の金額が高い」が18.4%、「3. ごみ袋の大きさが1種類で不便」が15.3%となっています。「4. 袋が不足している」、「7. 草津市も有料にすべきである」、「6. 減量するメリットが得られない」は10%程度でした。

今のままでよいという回答が約60%ですが、**指定ごみ袋の金額、サイズ、配付枚数、減量に対するインセンティブ（動機付け）に課題**を感じているという意見も一定数ありました。

【その他の主な意見について】

配付条件の改善や枚数不足について

- ・「家族が多い(オムツを利用する幼児もいる)ので足りなくなる」
- ・「子どもが多く、寝たきりの介護をしていると袋は全く足りなかった」
- ・「戸建住宅で敷地内の雑草や庭木の剪定枝等の処分で足りない」

適量の配付枚数について（世帯・人数等）

- ・「1人暮らし世帯で余る世帯と必要な世帯と枚数をふりわけて欲しい」
- ・「子育て世帯の配慮が必要」、「2人世帯でも5人世帯でも袋の枚数が同じなのは無理がある」

減量に対する優遇について

- ・「ごみの減量により引換券が余った時はいくらかで買い上げ/商品券に交換してもらえたら、もっと減量化が進むのでは」

袋のサイズについて

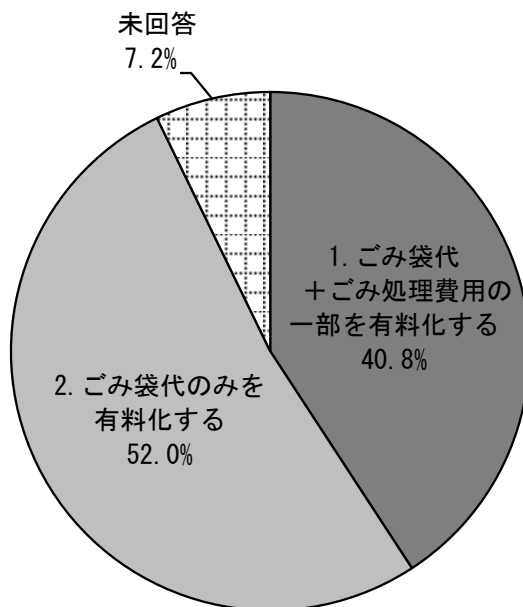
- ・「少人数の世帯が増えているので小さめの袋が有れば良いと思う」
- ・「大中小そろえて欲しい」

【11. ごみの有料化について】

目的 有料化に対して持つイメージをつかみ、今後の有料化検討に向けての参考とする。

問11-2 問11-1で7に○をつけた方にお聞きします。有料化にする場合、次のどちらが良いと思いますか。(○は1つ)

	回答数
1. ごみ袋代 +ごみ処理費用の一部を有料化する	40
2. ごみ袋代のみを有料化する	51
未回答	7
合計	98



【結果概要】

指定ごみ袋の有料化について、「2. ごみ袋代のみを有料化する」は 52.0%、「1. ごみ袋代+ごみ処理費用の一部を有料化する」は 40.8%となっています。

指定ごみ袋代として負担する費用については、ごみ処理費用を含む方が家庭での経済的負担の増加につながりますが、回答は二分され、その差は10ポイントほどです。

問 1 2 ごみ減量化・資源化等についてのご意見などをご自由にお書きください。

自由意見の中で最も多かったのは、「分別・排出」についてが最も多く（99件）で、次いで「指定ごみ袋」について（71件）、「ごみ有料化」について（44件）となっています。

1. 「分別・排出」について挙げられた主な意見

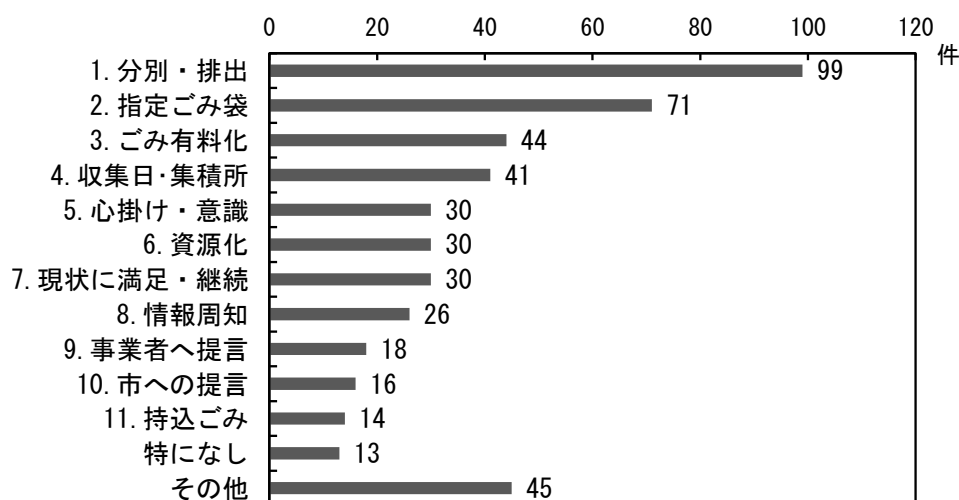
- ・今までプラスチックは洗って排出していたが、汚い物は焼却ごみに変わり矛盾を感じる。
- ・草津市は滋賀県の中でも他の市町村に比べて分別に関して厳しいと思っていたが、環境問題が問われるようになり、これが正しい方向性だと実感している。
- ・プラスチックで排出しても持ち帰ってもらえないことがある。破碎ごみ類と指示されたが、判断しにくい。硬質プラスチックとは画像などを使って具体的に周知してもらいたい。

2. 「指定ごみ袋」について挙げられた主な意見

- ・ごみ袋は大・中・小にしてほしい。大しかないのので、量が少ない時に色々つめて捨てる。
- ・少人数世帯ではごみ袋が大きすぎて、半分くらいの時がある。冬場は2回分をまとめるという方法もとれるが、夏場はにおいや腐敗のことも考えると小袋も欲しい。
- ・ごみ袋の引換券制度は良いが、不足した場合の購入額が1枚110円というのは高すぎる。

3. 「ごみ有料化」について挙げられた主な意見

- ・地域住民に地球温暖化・ごみ問題の意識を高めることも行政の役割だと考える。ごみ袋や処理代負担も有料にすることでごみを減らす意識も強くなると思う。
- ・一定数無料配付は続けてほしい。無くなると指定ごみ袋を使わず捨てる人が増えると思う。
- ・トータルでコスト削減、環境負担減、その他の市の発展につながるのであれば納得感は得られる。



●事業所アンケート調査結果

1. 調査概要

1) 調査の目的

事業所アンケートは、ごみの減量化や資源化を推進するための有効な施策立案や現状施策の改善を行うために、市内事業所を対象に各施策の認知度や事業所の取組について調査を行い、行政への要望や意見等を把握しました。

2) 調査対象、調査期間

草津市内の 200 事業所を対象としました。

実施期間は以下のとおりです。

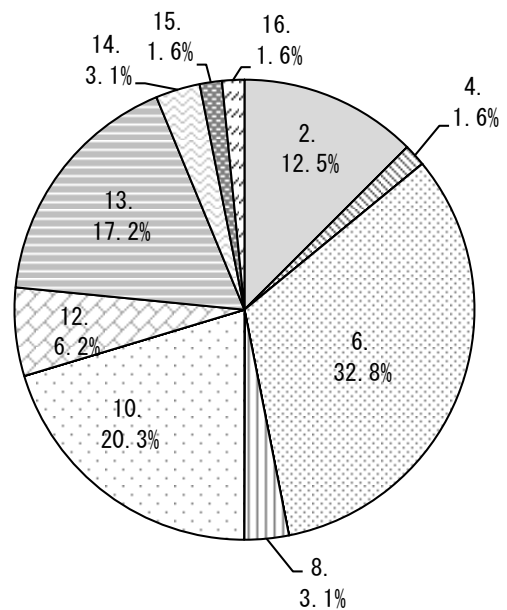
調査開始日 2019 年 12 月 7 日（土）

回答締切日 2019 年 12 月 25 日（水）（12 月 27 日（金）到着分）

3) 回収結果（回答数：64 件、回収率：32.0%）

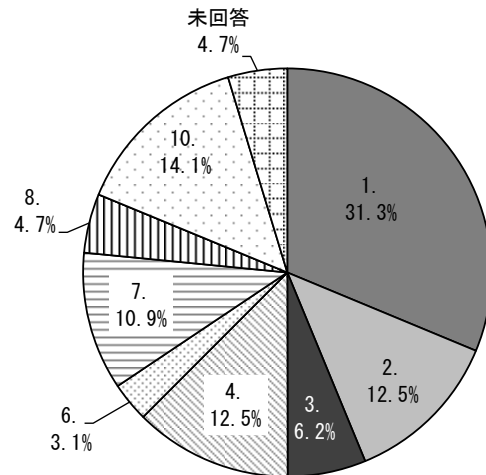
① 業種

	回答数
1. 建設業	0
2. 製造業	8
3. 電気・ガス・熱供給・水道業	0
4. 情報通信業	1
5. 運輸業、郵便業	0
6. 卸売業、小売業	21
7. 金融業、保険業	0
8. 不動産業、物品賃貸業	2
9. 学術研究、専門・技術サービス業	0
10. 宿泊業、飲食サービス業	13
11. 生活関連サービス業、娯楽業	0
12. 教育、学習支援業	4
13. 医療、福祉	11
14. 複合サービス事業	2
15. サービス業（他に分類されないもの）	1
16. その他	1
未回答	0
合計	64



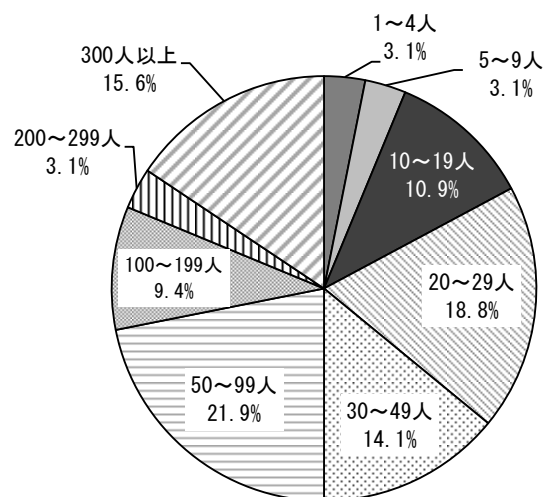
② 事業形態

	回答数
1. 販売店、店舗	20
2. 飲食店	8
3. 事務所・営業所	4
4. 工場・作業所	8
5. 倉庫・配送センター	0
6. ホテル・旅館	2
7. 学校・保育所・学習施設	7
8. 病院・医療機関	3
9. 映画館、劇場、娯楽施設等	0
10. その他	9
未回答	3
合計	64



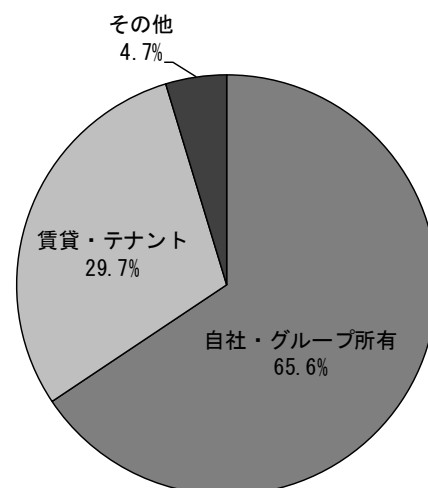
③ 従業員数

	回答数
1~4人	2
5~9人	2
10~19人	7
20~29人	12
30~49人	9
50~99人	14
100~199人	6
200~299人	2
300人以上	10
合計	64



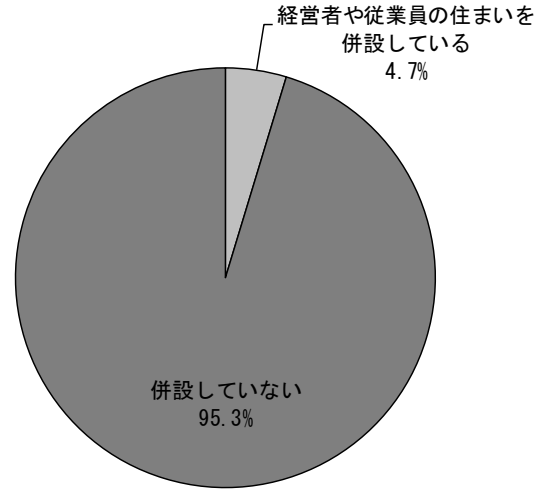
④ 事業所の所有形態

	回答数
自社・グループ所有	42
賃貸・テナント	19
その他	3
合計	64



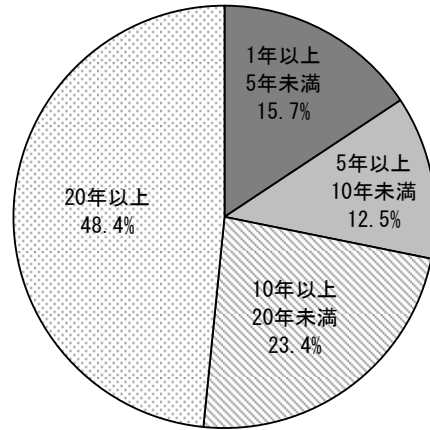
⑤ 住宅併設

	回答数
経営者や従業員の住まいを併設している	3
併設していない	61
合計	64



⑥ 営業年数 ※草津市内での営業年数

	回答数
1年未満	0
1年以上5年未満	10
5年以上10年未満	8
10年以上20年未満	15
20年以上	31
合計	64



【1. ごみ種別の処理・処分方法について】

目的 各事業所から排出されるごみ種と量、それらの資源化の有無を把握し、資源化率向上のための施策を検討する。

問1 貴事業所では、事業活動に伴い発生するごみや資源物について、どのくらい発生・処理していますか。その量を記入ください。

また、どのように処理していますか。該当する欄に○を記入してください。

	一般廃棄物								産業廃棄物						
	生ごみ	手付かず食品	新聞	雑誌	段ボール	コピー、OA用紙	機密文書	メモ、伝票等	食用廃油	ペットボトル	プラスチック類	缶類	びん	不燃ごみ	粗大ごみ
①一般廃棄物収集運搬業者にごみとして出している	54.7%	35.9%	9.4%	9.4%	17.2%	31.3%	15.6%	28.1%	9.4%	25.0%	25.0%	21.9%	23.4%	14.1%	9.4%
②一般廃棄物収集運搬業者に資源物として出している	6.3%	3.1%	12.5%	14.1%	28.1%	6.3%	1.6%	7.8%	4.7%	18.8%	7.8%	21.9%	21.9%	1.6%	1.6%
③自らクリーンセンターに直接搬入している	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.1%
④産業廃棄物処理業者に処理を委託している	17.2%	17.2%	14.1%	12.5%	21.9%	21.9%	18.8%	20.3%	26.6%	26.6%	39.1%	26.6%	28.1%	43.8%	45.3%
⑤リサイクル業者に売却している	0.0%	0.0%	9.4%	9.4%	10.9%	4.7%	1.6%	3.1%	7.8%	3.1%	1.6%	4.7%	3.1%	0.0%	1.6%
⑥処理費用を支払って直接リサイクル業者に資源化を依頼している	9.4%	4.7%	1.6%	1.6%	6.3%	4.7%	6.3%	3.1%	4.7%	7.8%	6.3%	6.3%	4.7%	7.8%	7.8%
⑦企業内・企業グループ内でリサイクルしている	0.0%	0.0%	4.7%	4.7%	4.7%	7.8%	6.3%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%	1.6%
⑧納入業者（販売者）が回収している	0.0%	1.6%	12.5%	10.9%	0.0%	1.6%	1.6%	1.6%	4.7%	10.9%	3.1%	9.4%	6.3%	1.6%	1.6%
⑨本社（本店）が一括しているので分からない	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	3.1%	1.6%	12.5%	4.7%	3.1%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%
⑩建物の管理会社に任せているので分からない	0.0%	0.0%	0.0%	1.6%	1.6%	1.6%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%
未回答	17.2%	37.5%	35.9%	35.9%	6.3%	23.4%	31.3%	31.3%	39.1%	9.4%	17.2%	10.9%	12.5%	28.1%	29.7%

【結果概要】

選択肢の①～⑩のうちで、②、⑤、⑥、⑦は事業者が資源物として排出している割合であり、①、③、④は事業者が廃棄物として排出している割合を示しています。

資源物としての排出割合が比較的高いものは、「段ボール」、「ペットボトル」、「缶類」、「びん」であり、「段ボール」を除く3種は産業廃棄物に分類されるため、処理コストの観点から資源化が進んでいると考えられます。

一方で、「生ごみ」、「手付かず食品」、「コピー、OA用紙」、「プラスチック類」、「不燃ごみ」、「粗大ごみ」については、廃棄物として排出している割合が高く、一部のごみ種で資源化が進む余地があると考えられます。

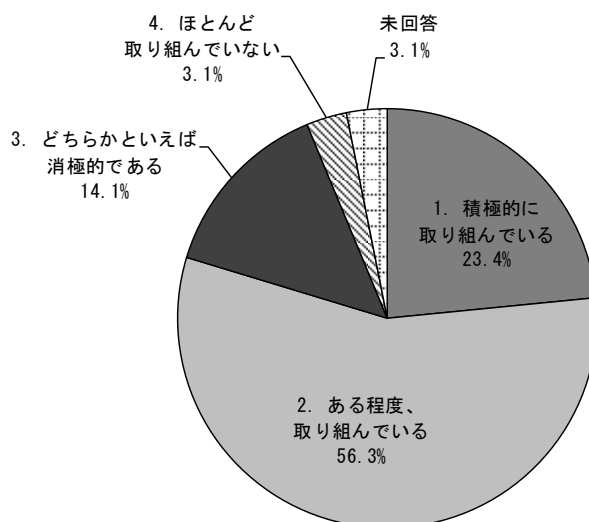
なお、表中で、一般廃棄物を「産業廃棄物業者に処理を委託している」、産業廃棄物を「一般廃棄物業者にごみとして出している」との回答があり、一部排出事業者の認識不足がうかがえます。

【2. ごみの減量化・資源化の取り組みについて（その1）】

目的 事業所の資源化等への積極性を把握し、積極性の高い事業所との連携した取り組みや積極性の低い事業所への後押しとなるような施策を検討する。

問2 貴事業所のごみ減量化・資源化に関する取組についてお聞きます。（○は1つ）

	回答数
1. 積極的に取り組んでいる	15
2. ある程度、取り組んでいる	36
3. どちらかといえば消極的である	9
4. ほとんど取り組んでいない	2
未回答	2
合計	64



【結果概要】

「1. 積極的に取り組んでいる」と「2. ある程度、取り組んでいる」の合計で約80%の事業所がごみの減量化、資源化に取り組まれています。多くの事業所が意欲的にごみの減量化・資源化に取り組んでいますが、一部（17.2%）消極的な事業所があります。

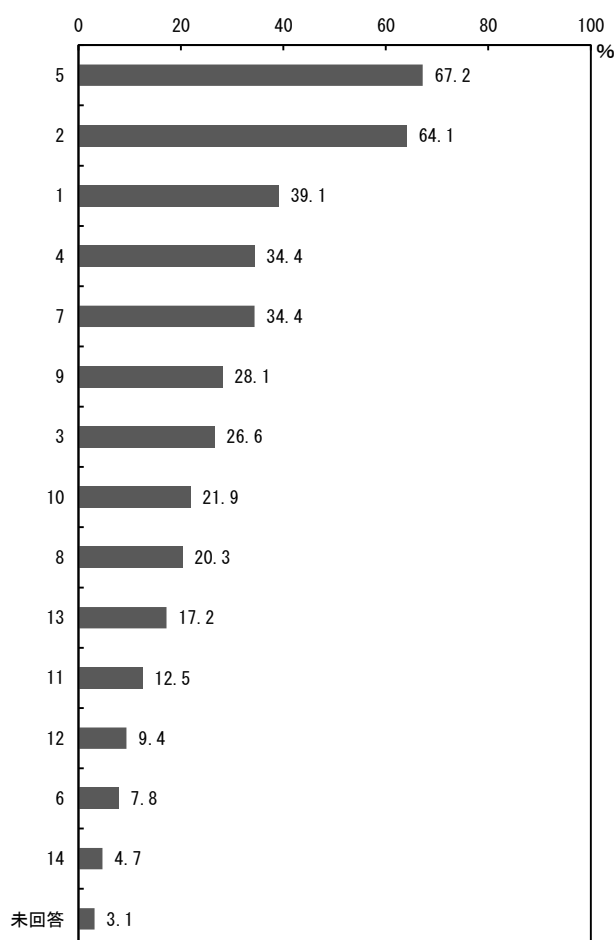
【2. ごみの減量化・資源化の取り組みについて（その2）】

目的 ごみの減量化等に対する実際の取り組みを調査・把握する。取り組みごとの回答結果や回答者属性とのクロス分析により、ターゲットを絞り、施策につなげる。

問3 貴事業所では、ごみ減量化・資源化に関してどのような取組を行っていますか。

（〇はいくつでも）

	回答数
5. 缶やびんの分別回収箱を設置している	43
2. 書類のペーパーレス化に努めている	41
1. 取引先や納入業者に簡易包装等の省資源化や通い箱の使用を依頼している	25
4. 古紙回収箱を設置している	22
7. 再生紙など再生用品の使用に努めている	22
9. ごみの減量化や資源化を事業所内に呼びかけている（ポスターの掲示など）	18
3. 紙コップなど使い捨て製品の使用削減に努めている	17
10. ごみの減量化や資源化を推進する部署や担当者を設置している	14
8. 減量目標を定めて、ごみの減量に取り組んでいる	13
13. 排出するごみや資源物の計量を行っている	11
11. ごみの減量化や資源化のマニュアルを作成している	8
12. ごみに関する検討委員会や組織を設置している	6
6. 周辺の事業所と協働して古紙を資源化している	5
14. その他	3
未回答	2
合計	250



【結果概要】

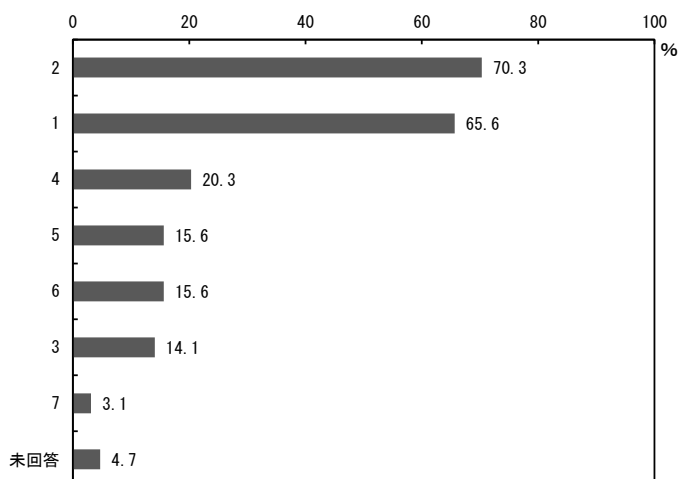
「2. 書類のペーパーレス化」と「5. 缶やびんの分別回収箱の設置」は約60%を超える事業所で取り組まれており、書類の減量化や資源物の分別回収が進められている一方で、「4. 古紙回収箱を設置している」事業所は34.4%にとどまっており、資源化の取組があまり進んでいないことがうかがえます。

【2. ごみの減量化・資源化の取り組みについて（その3）】

目的 事業者が何をモチベーションにごみの減量化等を進めているのか把握し、その点に働きかけるような施策を検討する。

問4 貴事業所で、ごみ減量化・資源化に取り組む主な理由は何ですか。（〇はいくつでも）

	回答数
2. 会社の社会的責任を果たすため	45
1. ごみを減らすことでコスト削減につながるため	42
4. ISO14001等の認証を取得している（または取得したい）ため	13
5. 法律で定められているため	10
6. 会社全体で規定されている	10
3. 会社の宣伝やイメージアップを図るため	9
7. その他	2
未回答	3
合計	134



【結果概要】

「1. ごみを減らすことでコスト削減につながるため」と「2. 会社の社会的責任を果たすため」が約70%であり、事業者のごみ減量化・資源化に取り組む主な理由となっています。

また、「5. 法律で定められているため」との回答は15.6%となっており、**法律に定められる事業者の責務であるという認識は高くはないことがうかがえます。**

○廃棄物の処理及び清掃に関する法律

（事業者の責務）

第三条 事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を自らの責任において適正に処理しなければならない。

2 事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物の再生利用等を行うことによりその減量に努めるとともに、物の製造、加工、販売等に際して、その製品、容器等が廃棄物となった場合における処理の困難性についてあらかじめ自ら評価し、適正な処理が困難にならないような製品、容器等の開発を行うこと、その製品、容器等に係る廃棄物の適正な処理の方法についての情報を提供すること等により、その製品、容器等が廃棄物となった場合においてその適正な処理が困難になることのないようにしなければならない。

3 事業者は、前二項に定めるもののほか、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保等に関し国及び地方公共団体の施策に協力しなければならない。

（平三法九五・一部改正）

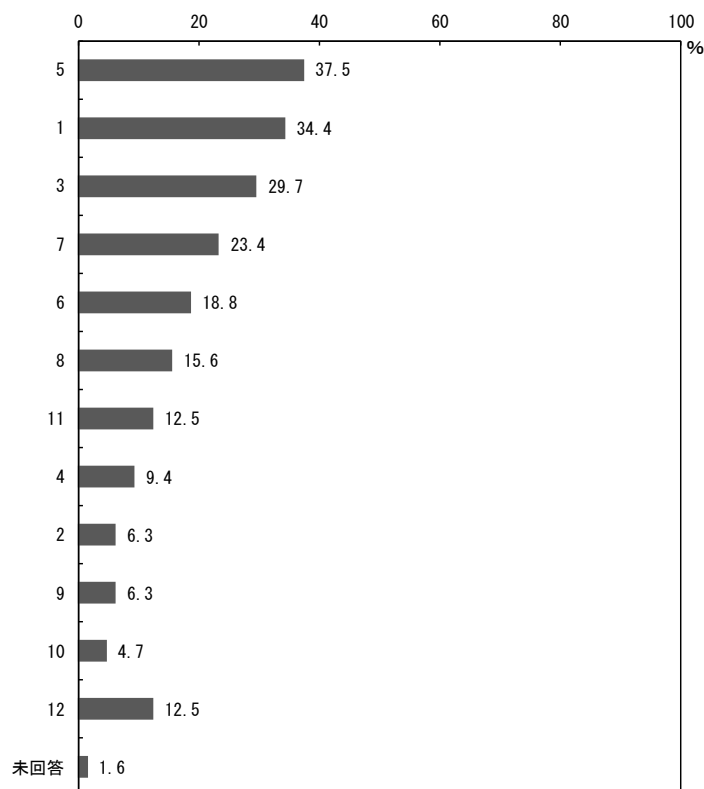
【2. ごみの減量化・資源化の取り組みについて（その4）】

目的 事業者の減量等の問題点を把握し、施策を検討する。

問5 貴事業所で、ごみ減量化・資源化を進めていくうえでの問題点は何ですか。

（〇はいくつでも）

	回答数
5. ごみの減量化、分別に手間がかかる	24
1. 資源物を保管しておく場所がない	22
3. 従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい	19
7. 機密書類が多く、リサイクルが難しい	15
6. ごみの減量化、分別に費用がかかる	12
8. 一般廃棄物と産業廃棄物の区別が難しい	10
11. 特に問題ない	8
4. 資源化できるものが出ない、または発生量が少ない	6
2. 資源物やリサイクル可能な不用品の引渡し先（回収業者）が分からない	4
9. 分別や排出方法のルールが分からない、理解しにくい	4
10. ごみ処理について質問や相談する窓口（市）が分からない	3
12. その他	8
未回答	1
合計	136



【結果概要】

「5. ごみの減量化、分別に手間がかかる」や「6. ごみの減量化、分別に費用がかかる」といったコストを問題点として挙げる事業所がそれぞれ 37.5%、18.8%あり、その他の問題点として「1. 資源物を保管しておく場所がない」が 34.4%、「3. 従業員に分別の徹底やごみ減量の意識を浸透させることが難しい」が 29.7%となっています。

また、「7. 機密書類が多く、リサイクルが難しい」については、シュレッダーした機密書類もリサイクル可能であるため、事業所に周知することで資源化が進む余地があります。

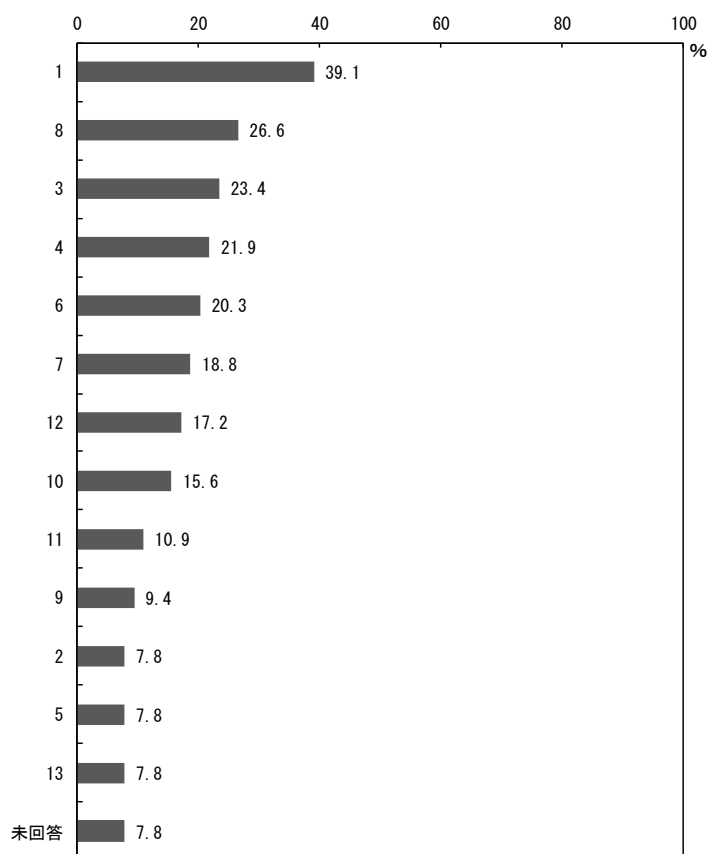
【2. ごみの減量化・資源化の取り組みについて（その5）】

目的 今後資源化に取り組みたいごみ種のニーズを把握し、資源化の方法などを周知案内できるよう活用する。

問6 貴事業所で、今後減量化、資源化を進めたいと考えている品目はありますか。

（〇はいくつでも）

	回答数
1. 生ごみ	25
8. プラスチック類	17
3. 段ボール	15
4. コピー用紙、OA用紙	14
6. 雑紙（メモ用紙、伝票、封筒、空箱、シュレッダーくず）	13
7. ペットボトル	12
12. 粗大ごみ	11
10. びん	10
11. 不燃ごみ	7
9. 缶類	6
2. 新聞、雑誌	5
5. 機密文書	5
13. その他	5
未回答	5
合計	150



【結果概要】

「1. 生ごみ」が最も高く 39.1%あり、次いで「8. プラスチック類」が 26.6%となっています。

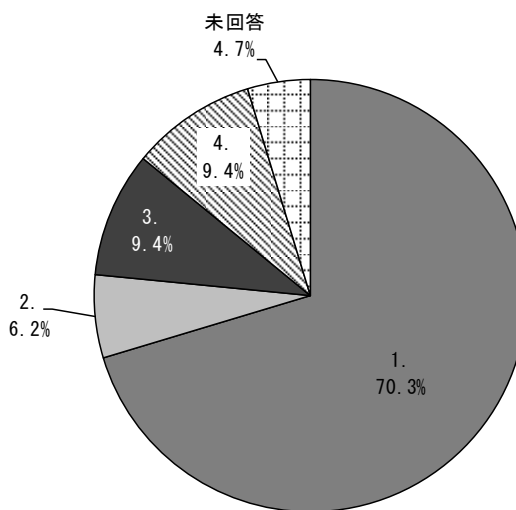
また、「3. 段ボール」、「4. コピー用紙、OA用紙」、「6. 雑紙（メモ用紙、伝票、封筒、空箱、シュレッダーくず）」といった古紙類について約 20%の事業所が今後減量化、資源化を進めたいと考えています。

【3. ごみ処理費用について（その1）】

目的 事業者のごみ処理費用への意識の高さを把握するとともに意識付けを行う。

問7 貴事業所において、ごみ処理にかかる費用について把握していますか。（○は1つ）

	回答数
1. 許可業者等に直接費用を支払っており把握している	45
2. 直接支払っていないが管理会社等から資料を入手し把握している	4
3. 事務所の管理費や共益費に含まれているため具体的な費用は分からない	6
4. 処理費用は特に意識していないため分からない	6
未回答	3
合計	64



【結果概要】

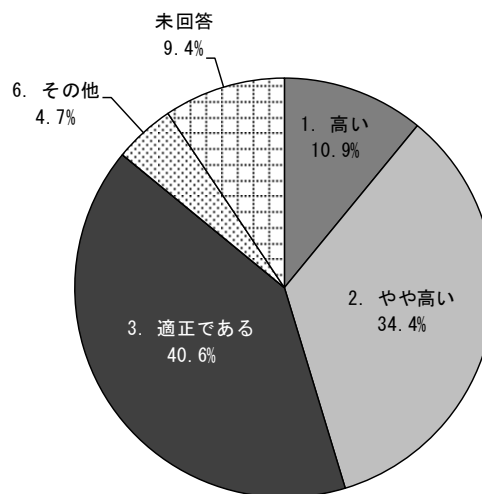
「1. 許可業者等に直接費用を支払っており把握している」が最も高く、約70%の事業所がごみ処理経費を把握しています。しかし、「3. 事務所の管理費や共益費に含まれているため具体的な費用は分からない」、「4. 処理費用は特に意識していないため分からない」といった回答もあり、処理費用を把握していない事業所も20%程度ありました。

【3. ごみ処理費用について（その2）】

目的 事業者の負担感を把握する。（今後の手数料改定時の参考）

問8 貴事業所において、搬入手数料の負担についてどう思いますか。（○は1つ）

	回答数
1. 高い	7
2. やや高い	22
3. 適正である	26
4. やや安い	0
5. 安い	0
6. その他	3
未回答	6
合計	64



【結果概要】

搬入手数料の負担について、約40%の事業所で搬入手数料が「3. 適正である」と回答されましたが、「2. やや高い」を含めた約45%の事業所では、搬入手数料が高いと感じていると回答され、搬入手数料の負担を感じている事業所が多くありました。

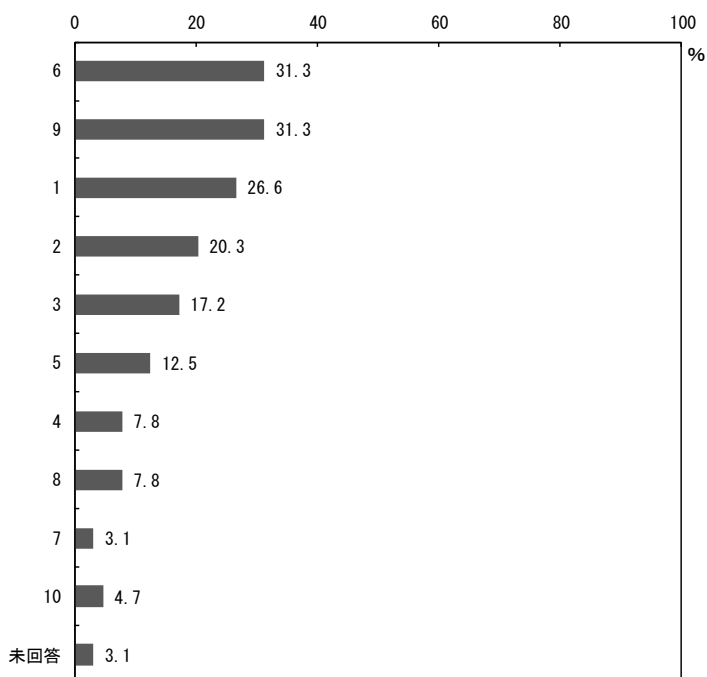
【4. ごみ減量やリサイクルに関する情報について】

目的 事業者のごみに関する情報収集手段について把握し、有用なものを継続し、効果の薄いものについて再検討する。

問9 ごみ減量やリサイクルに関する情報をどのようにして入手していますか。

(〇はいくつでも)

	回答数
6. 収集運搬業者への問い合わせ	20
9. 特になし	20
1. 草津市の広報紙	17
2. 草津市のホームページ	13
3. インターネット	11
5. 新聞、雑誌などの紙媒体	8
4. テレビ、ラジオ	5
8. 草津市役所またはクリーンセンターへの問い合わせ	5
7. 同業者や加盟団体などへの問い合わせ	2
10. その他	3
未回答	2
合計	106



【結果概要】

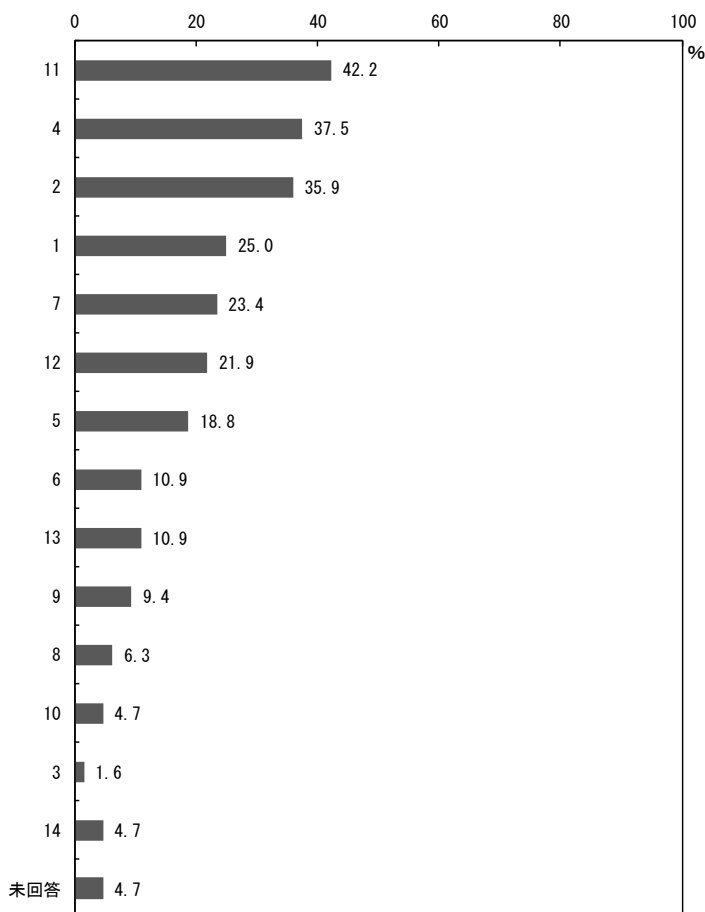
「6. 収集運搬業者への問い合わせ」という回答が 31.3%と最も高く、主な情報源と考えられますが、「9. 特になし」についても同じく 31.3%と、積極的な情報収集が行われていないといった傾向がうかがえます。次いで多い項目についても「1. 草津市の広報紙」の 26.6%であり、事業者の情報収集については、全体的に低調と言えます。

【5. ごみ減量や資源化のための実施施策について】

事業者が必要と考えるごみに関する施策を把握し、上位のものについてより積極的に施策展開を検討するとともに、下位のものについても減量効果等を勘案しながら必要性やその効果を周知し、施策につなげていく。

問10 ごみ減量化・資源化を進めていくためには、どのような施策が必要だと思いますか。
(特に重要と思われるものから○を5つまで)

	回答数
11. リサイクル事業の拡充	27
4. ごみ減量化・資源化の事例紹介	24
2. ごみ減量化・資源化マニュアルの提供	23
1. 事業者に対するごみの減量・リサイクルの啓発、指導	16
7. ごみ処理に関する相談窓口や体制の充実	15
12. 資源循環の推進	14
5. 収集運搬業者、処理業者に関する情報提供	12
6. 法令や条例等の規制に関する情報提供	7
13. 社内研修などによる従業員の意識向上	7
9. 罰則制度の強化・徹底	6
8. 事業者を対象とした廃棄物の講習会の開催	4
10. ごみ収集運搬業者の指導強化	3
3. 優良事業所の紹介や表彰	1
14. その他	3
未回答	3
合計	165



【結果概要】

「11. リサイクル事業の拡充」という回答が42.2%と最も高く、新たな資源化先を求めていることがうかがえます。次いで「4. 事例紹介」が37.5%、「2. マニュアルの提供」が35.9%であり、減量化・資源化に関する情報提供が求められています。

問 1 1 ごみ減量化・資源化等についてのご意見などをご自由にお書きください。

自由意見の中で最も多かったのは、「意識の向上」についてが最も多く（6件）で、次いで「ごみ発生要因」について（4件）、「ごみ減量」について（2件）となっています。

1. 「意識の向上」について挙げられた意見

- ・ごみ減量化・資源化・リサイクルは人類の課題だと思う。 (複合サービス事業)
- ・宿泊者の意識を向上させる必要性を感じる。 (宿泊業、飲食サービス業)
- ・SDGsの認識が低い。意識向上が課題である。 (宿泊業、飲食サービス業)
- ・生産活動を行うなかで廃棄物を減らすことは重要な課題であり、日々検討・対策を進める。 (製造業)
- ・駐車場へごみを捨てられる事に対して貼り紙等で注意している。 (卸売業、小売業)
- ・排出者の意識高揚に頼るのは理想形ではあるが、危うい手法と思われる。 (不動産業、物品賃貸業)

2. 「ごみ発生要因」について挙げられた意見

- ・福祉施設のごみ減量化は非常に難しい。おむつを換えないわけにはいかないし、手洗い後にペーパータオルを使用するなども言えず、衛生面に一番配慮しようとするところある程度はごみが出る。 (医療、福祉)
- ・事業所内のごみの多くは、リハビリパンツや紙オムツ等の使用済の排泄用品が大半である。よって、なかなかごみ減量に努めるにも限界がある。 (医療、福祉)
- ・製造業を営んでいると必ず廃棄物が出る。 (製造業)
- ・京都市のように一般家庭も分別義務化が必要である。 (宿泊業、飲食サービス業)

3. 「ごみ減量」について挙げられた意見

- ・書類のペーパーレス化などできるところから少しずつしていきたいと思う。 (医療、福祉)
- ・古紙は可能な限りリサイクルに努めており、引き続き事業所として出来ることを行いたい。 (医療、福祉)

4 ごみ組成調査結果

1. 調査概要

1) 調査の目的

ごみ組成調査は、本市の家庭および事業所から排出されるごみの組成を確認するため、各ごみ質における排出特性や分別状況の調査を行い、ごみ種類ごとの適正排出割合や減量化・資源化可能な項目の現状把握を行いました。

2) 調査対象、調査地域、実施期間

調査対象は、家庭系焼却ごみ類、家庭系破碎ごみ類、事業系一般廃棄物を対象としました。

調査地域は、表 1-1 のとおりとし、各地域とも約 100kg 以上のごみを収集し、調査しました。

表 1-1 調査対象及び調査地域

調査対象	調査地域数：6	
家庭系焼却ごみ類	戸建住宅地	[1] 琵琶湖周辺地、 [2] 低層住宅地
	集合住宅地	[3] 中高層住宅地、 [4] 駅周辺地、 [5] 駅近隣地
	大学周辺地	[6] 大学周辺地
調査対象	調査地域数：3	
家庭系破碎ごみ類	戸建住宅地	[1] 低層住宅地
	集合住宅地	[2] 中高層住宅地
	大学周辺地	[3] 大学周辺地
調査対象	調査地域数：2	
事業系一般廃棄物	[1] 駅周辺地、 [2] 工業系事業所密集地	

実施期間は以下のとおりです。

実施日：2019年11月25日（月）～11月29日（金）

組成分析の実施場所：草津市立クリーンセンター（旧施設の一部）

3) 分類項目及び重量測定

分類項目は、減量化、資源化可能な項目を把握するため、表 1-2 の 8 分類 31 項目を基準とし、手作業で分類を実施しました。

重量測定は、調査前の試料（指定ごみ袋 1 袋当たりの投入容量）及び分類項目ごとの重量測定を行い、家庭系ごみ及び事業系ごみに含まれる減量化、資源化可能な品目とその割合を把握しました。

なお、No.1「手付かず食品」は容器包装の重量を考慮し、その重量を含んでいません。また、今回の調査では、No.1「手付かず食品」、No.3「食べ残し」を減量化可能（食品ロス）とし、No.2「料理くず」を資源化可能として整理しました。また、生ごみ中の袋に入った水分は No.4「その他生ごみ」とし、水分が付着した紙類は経緯が不明なため、No.5「紙くず」として分類しました。

表 1-2 ごみ組成調査の分類項目 (8分類 31項目)

番号	大分類	中分類	小分類	具体的な品目
1	焼却ごみ類	生ごみ	手付かず食品	手付かずの食品で原型があるもの(直接廃棄)
2			料理くず	野菜・果物の皮、卵の殻等(不可食部)
3			食べ残し	ご飯・パン・麺類、おかず等
4			その他	ティーバック、台所ごみ等
5	紙くず	紙くず	紙くず(リサイクル不可)	タバコの吸殻、ティッシュペーパー、汚れのひどい紙類、防水加工、ワックス加工、アルミ加工、カーボン紙、圧着ハガキ、写真など特殊な素材。感熱紙、資源化できない紙類
6			紙おむつ	紙おむつ、衛生紙等
7	ゴム・皮革製品、繊維類	ゴム・皮革製品、繊維類	ゴム・皮革製品	合成樹脂製品、皮革類、長靴等
8			繊維類リサイクル可能	衣類、繊維類
9			繊維類リサイクル不可	汚れのひどい衣類、繊維類
10	プラスチック製容器類	プラスチック容器包装を除くプラスチック	プラスチック製容器包装を除くプラスチック	プラマークがないもの、カセットテープ、ビデオテープ、CD(ケース含む)、ゲームソフト、歯ブラシ、プラスチック製のおもちゃ等
11			在宅医療廃棄物	ビニールバッグ類、チューブ・カテーテル類、脱脂綿、ガーゼ等
12			その他	使い捨てカイロ、保冷剤、乾燥剤、家庭用ラップ等
13	プラスチック製容器類	プラスチック製容器類	包装類	商品を包んでいたプラスチックのシート・フィルム
14			袋・ラップ類	菓子類などの袋、商品を包んでいたラップ果物が入っていたネット
15			カップ・パック類	プリンなどのカップ、食料品などのパック、インスタント食品などの容器
16			トレイ類	食品トレイ
17			その他(チューブ類、ボトル類、ふた・キャップ類)	歯磨き粉、ねりわさび、マヨネーズ・ケチャップの容器・チューブなど 調味料・シャンプー・洗剤などのボトル ボトル類・チューブ類・カップ類などのふた・キャップ・ペットボトルなどのふた
18			リサイクル不可(簡易な洗浄でリサイクル可)	汚れのひどい容器等
19	レジ袋	レジ袋		
20	ペットボトル類	ペットボトル	飲料用、醤油用(きれいなもの)	
21	空き缶類		ジュース缶、ビール缶、缶詰の缶、菓子缶、スプレー缶、カセットボンベ(穴あき)	
22	飲・食料用ガラスびん類		調味料びん、酒びん、清涼飲料びん、リターナブルびん	
23	破碎ごみ類	小型金属類	小型金属類	フライパン、鍋、やかん等
24			小型家電製品	ゲーム機、ミキサー、電話機、ポット、浄水器、ひげそり機、アイロン、ドライヤー、トースト等
25			硬質プラスチック製品	バケツ、洗面器、フラワーポット等、硬質プラスチック、おおむね20cm以上のもの
26			その他	傘、刃物、金属キャップ、電気コード等
27	陶器・ガラス類		陶器製の茶碗、花瓶、湯のみ、皿、土鍋等 板ガラス、ガラス食器、耐熱ガラス容器、化粧品・薬品のビン、電球、鏡等	
28	古紙類	新聞・広告	新聞・広告	新聞・広告
29			段ボール	段ボール
30			雑誌・雑紙	週刊誌、紙箱、コピー用紙、紙袋、単行本、牛乳パック
31	その他	電池・ライター等	電池、ライター	

2. ごみ質調査結果

1) ごみ種別ごとの平均排出割合

ごみ種別ごとに平均排出割合及び地域別排出割合を表 2-1～2-3 及び図 2-1～2-3 に示します。

① 家庭系焼却ごみ類 (平均値)

表 2-1 家庭系焼却ごみ調査結果 (平均値)

大分類	中分類	小分類	No.	家庭系 焼却ごみ類
				平均
焼却 ごみ類	生ごみ	手付かず食品	1	5.97
		料理くず	2	11.93
		食べ残し	3	4.37
		その他	4	11.23
	紙くず	紙くず (リサイクル不可)	5	15.01
		紙おむつ	6	9.47
	ゴム・ 皮革製品、 繊維類	ゴム・皮革製品	7	0.28
		繊維類 (リサイクル可能)	8	2.75
		繊維類 (リサイクル不可)	9	1.36
	プラスチック容器包装を除くプラスチック	10	0.94	
	在宅医療廃棄物	11	0.00	
	その他	12	6.37	
プラス チック 製容器 類	包装類	13	0.09	
	袋・ラップ類	14	7.71	
	カップ・バック類	15	1.91	
	トレイ類	16	0.22	
	その他 (チューブ類 ボトルふた・キャップ類)	17	1.65	
	リサイクル不可 (簡易な洗浄でリサイクル可)	18	1.17	
	レジ袋	19	0.76	
ペットボトル類	20	0.50		
空き缶類	21	0.25		
破碎 ごみ類	飲・食料用ガラスびん類	22	0.10	
	小型金属類	23	0.00	
	小型家電製品	24	0.00	
	硬質プラスチック製品	25	0.02	
その他	26	0.20		
陶器・ガラス類	陶器・ガラス類	27	0.41	
	その他(電池・ライター)	31	0.04	
古紙類	新聞・広告	28	2.03	
	段ボール	29	1.08	
	雑誌・雑紙	30	12.18	
合計	—	—	100	

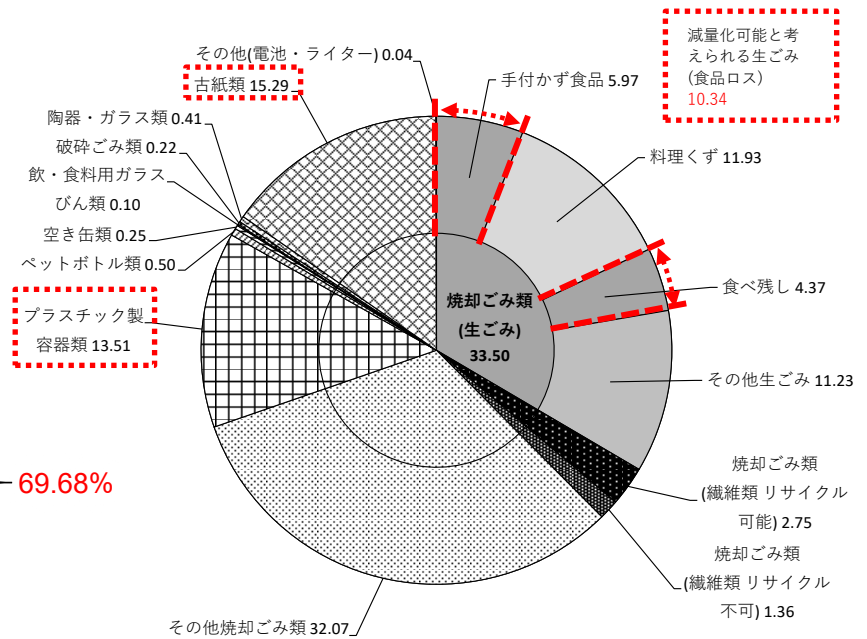


図 2-1 家庭系焼却ごみ調査結果 (平均値)

全体の組成割合の概要

- ・焼却ごみ類 (69.68%)、古紙類 (15.29%)、プラスチック製容器類 (13.51%) の順で多く含まれています。
- ・減量化可能と考えられる生ごみ (食品ロス) が合計で約 10% 含まれています。
- ・資源化可能と考えられる廃棄物が合計で約 43% 含まれています。

No.1 「手付かず食品」 5.97%
 No.3 「食べ残し」 4.37%

No.28～No.30 「古紙類」 15.29%
 No.13～No.19 「プラスチック製容器類」 13.51%
 No.2 「料理くず」 11.93%
 No.8 「繊維類 (リサイクル可能)」 2.75%

② 家庭系破碎ごみ類（平均値）

表 2-2 家庭系破碎ごみ調査結果（平均値）

大分類	中分類	小分類	No.	家庭系 破碎ごみ類	
				平均	
焼却 ごみ類	生ごみ	手付かず食品	1	0.00	
		料理くず	2	0.00	
		食べ残し	3	0.00	
		その他	4	0.00	
	紙くず	紙くず（リサイクル不可）	5	0.00	
		紙おむつ	6	0.00	
	ゴム・ 皮革製品、 繊維類	ゴム・皮革製品	7	0.37	
		繊維類（リサイクル可能）	8	0.00	
		繊維類（リサイクル不可）	9	0.00	
	プラスチック容器包装を除くプラスチック			10	1.59
	在宅医療廃棄物			11	0.00
	その他			12	3.07
プラス チック 製容器 類	包装類		13	0.00	
	袋・ラップ類		14	0.00	
	カップ・バック類		15	0.00	
	トレイ類		16	0.00	
	その他（チューブ類 ボトル類 ふた・キャップ類）		17	0.27	
	リサイクル不可（簡易な洗浄でリサイクル可）		18	0.00	
	レジ袋		19	0.16	
ペットボトル類			20	0.00	
空き缶類			21	0.06	
飲・食料用ガラスびん類			22	0.00	
破碎 ごみ類	小型金属類		23	17.87	
	小型家電製品		24	40.53	
	硬質プラスチック製品		25	22.41	
	その他		26	12.54	
陶器・ガラス類			27	0.95	
古紙類	新聞・広告		28	0.00	
	段ボール		29	0.00	
	雑誌・雑紙		30	0.18	
その他（電池・ライター）			31	0.00	
合計	—		—	100	

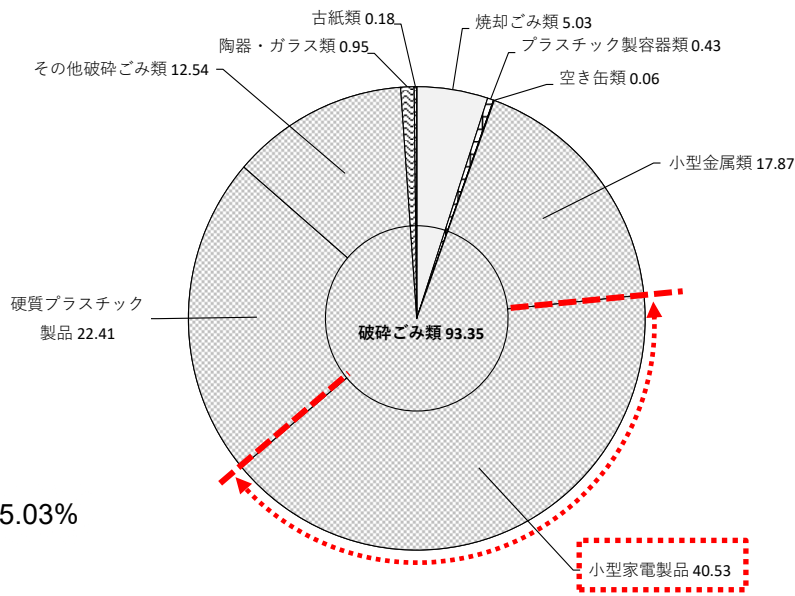


図 2-2 家庭系破碎ごみ調査結果（平均値）

全体の組成割合の概要

- ・破碎ごみ類（93.35%）、焼却ごみ類（5.03%）、陶器・ガラス類（0.95%）の順で多く含まれています。
- ・資源化している廃棄物が約 58% 含まれています。
 - 〔 No.24 「小型家電製品」 40.53% 〕
 - 〔 No.23 「小型金属類」 17.87% 〕
 また、No.26 「その他」のうち、一部についても資源化しています。
- ・間違った分別で排出された廃棄物が合計で約 7% 含まれています。
 - 〔 No.1～No.12 「焼却ごみ類」 5.03% 〕
 - 〔 No.27 「陶器・ガラス類」 0.95% 〕
 - 〔 No.13～No.19 「プラスチック製容器類」 0.43% 〕
 - 〔 No.28～No.30 「古紙類」 0.18% 〕
 - 〔 No.21 「空き缶類」 0.06% 〕

③ 事業系一般廃棄物

表 2-3 事業系一般廃棄物調査結果（平均値）

大分類	中分類	小分類	No.	事業系一般廃棄物
				平均
焼却ごみ類	生ごみ	手付かず食品	1	8.87
		料理くず	2	3.40
		食べ残し	3	1.62
		その他	4	2.73
	紙くず	紙くず（リサイクル不可）	5	31.88
		紙おむつ	6	3.66
	ゴム・皮革製品、繊維類	ゴム・皮革製品	7	1.34
		繊維類（リサイクル可能）	8	0.36
		繊維類（リサイクル不可）	9	17.27
	プラスチック製容器包装を除くプラスチック	10	0.30	
	在宅医療廃棄物	11	0.00	
	その他	12	5.48	
プラスチック製容器類	包装類	13	0.06	
	袋・ラップ類	14	8.63	
	カップ・バック類	15	0.44	
	トレイ類	16	0.07	
	その他（チューブ類 ボトル類 ふた・キャップ類）	17	0.98	
	リサイクル不可（簡易な洗浄でリサイクル可）	18	0.59	
	レジ袋	19	0.31	
ペットボトル類	20	0.09		
空き缶類	21	0.06		
飲・食料用ガラスびん類	飲・食料用ガラスびん類	22	0.19	
	破碎ごみ類	小型金属類	23	0.00
		小型家電製品	24	0.00
		硬質プラスチック製品	25	0.00
その他	26	0.04		
陶器・ガラス類	27	0.13		
古紙類	新聞・広告	28	0.44	
	段ボール	29	1.40	
	雑誌・雑紙	30	9.66	
その他（電池・ライター）	31	0.00		
合計	—	—	100	

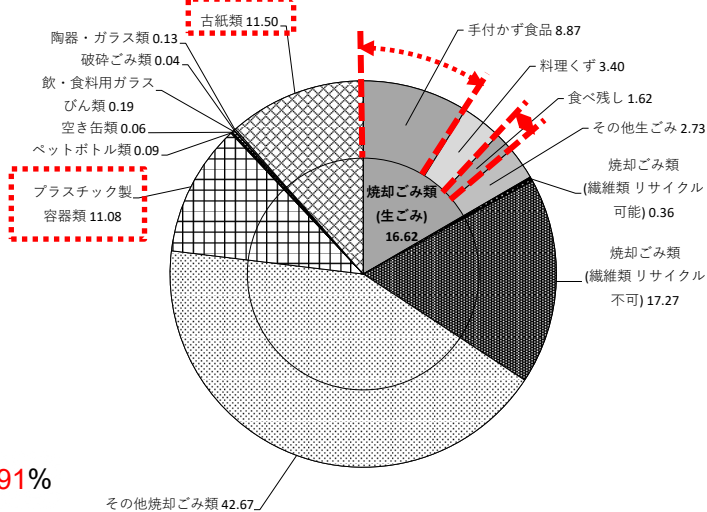


図 2-3 事業系一般廃棄物調査結果（平均値）

全体の組成割合の概要

- ・焼却ごみ類（76.91%）、古紙類（11.50%）、プラスチック製容器類（11.08%）の順で多く含まれています。
- ・減量化可能と考えられる生ごみ（食品ロス）が合計で約 10%含まれています。
 - 〔 No.1「手付かず食品」 8.87% 〕
 - 〔 No.3「食べ残し」 1.62% 〕
- ・資源化可能と考えられる廃棄物が合計で約 15%含まれています。
 - 〔 No.28～No.30「古紙類」 11.50% 〕
 - 〔 No.2「料理くず」 3.40% 〕
 - 〔 No.8「繊維類（リサイクル可能）」 0.36% 〕
- ・間違った分別で排出された廃棄物が合計で約 12%含まれています。
 - 〔 No.13～No.19「プラスチック製容器類」 11.08% 〕
 - 〔 No.10「プラスチック容器包装を除くプラスチック」 0.30% 〕
 - 〔 No.22「飲・食料用ガラスびん類」 0.19% 〕
 - 〔 No.27「陶器・ガラス類」 0.13% 〕
 - 〔 No.20「ペットボトル類」 0.09% 〕
 - 〔 No.21「空き缶類」 0.06% 〕
 - 〔 No.23～No.26「破碎ごみ類」 0.04% 〕

※上記は全て産業廃棄物であり、資源化できるものがあります。

2) ごみ種別ごとの地域別排出割合

地域別の結果は資料編として表 2-4~2-6 及び図 2-4~2-6 に示します。

① 家庭系焼却ごみ類

表 2-4(1) 家庭系焼却ごみ調査結果（地域別）1/2

大分類	中分類	小分類	No.	琵琶湖周辺地	低層住宅地	中高層住宅地
焼却 ごみ類	生ごみ	手付かず食品	1	9.73	2.85	3.95
		料理くず	2	14.91	16.96	5.77
		食べ残し	3	3.07	1.88	4.12
		その他	4	15.98	17.01	18.88
	紙くず	紙くず（リサイクル不可）	5	15.86	12.88	8.84
		紙おむつ	6	9.85	8.34	22.20
	ゴム・ 皮革製品、 繊維類	ゴム・皮革製品	7	0.12	1.11	0.00
		繊維類（リサイクル可能）	8	6.13	4.97	0.07
		繊維類（リサイクル不可）	9	0.37	0.84	0.73
		プラスチック容器包装を除くプラスチック	10	0.30	1.35	2.58
		在宅医療廃棄物	11	0.00	0.00	0.00
		その他	12	2.02	16.32	2.79
プラス チック 製容器 類	包装類	13	0.04	0.12	0.00	
	袋・ラップ類	14	9.16	4.81	5.60	
	カップ・パック類	15	1.72	0.52	1.18	
	トレイ類	16	0.13	0.10	0.10	
	その他（チューブ類 ボトル類 ふた・キャップ類）	17	1.03	0.77	1.00	
	リサイクル不可（簡易な洗浄でリサイクル可）	18	0.70	0.63	0.18	
	レジ袋	19	0.55	0.30	0.49	
	ペットボトル類	20	0.43	0.20	0.22	
	空き缶類	21	0.09	0.00	0.40	
	飲・食料用ガラスびん類	22	0.00	0.00	0.00	
破碎 ごみ類	小型金属類	23	0.00	0.00	0.00	
	小型家電製品	24	0.00	0.00	0.00	
	硬質プラスチック製品	25	0.00	0.00	0.10	
	その他	26	0.08	0.36	0.04	
	陶器・ガラス類	27	0.00	0.00	0.00	
古紙類	新聞・広告	28	1.62	1.30	0.98	
	段ボール	29	0.98	0.87	0.62	
	雑誌・雑紙	30	5.13	5.51	19.16	
	その他（電池・ライター）	31	0.00	0.00	0.00	
合計		—	—	100	100	100

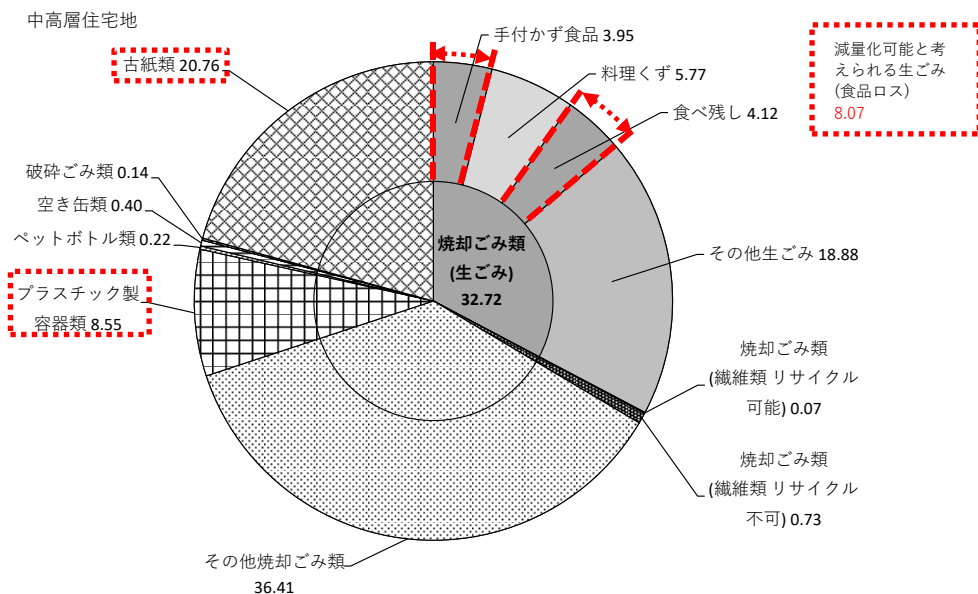
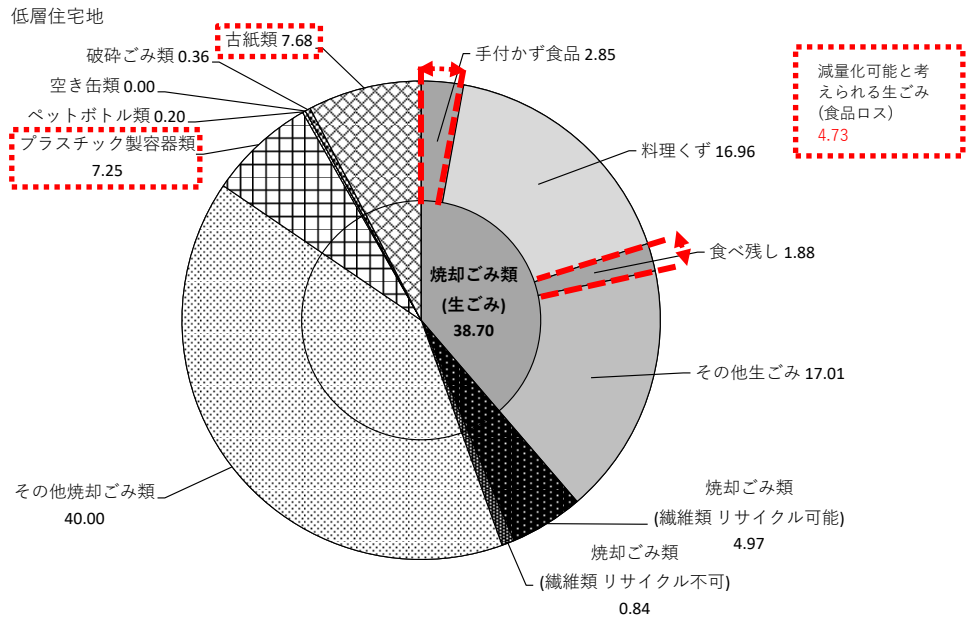
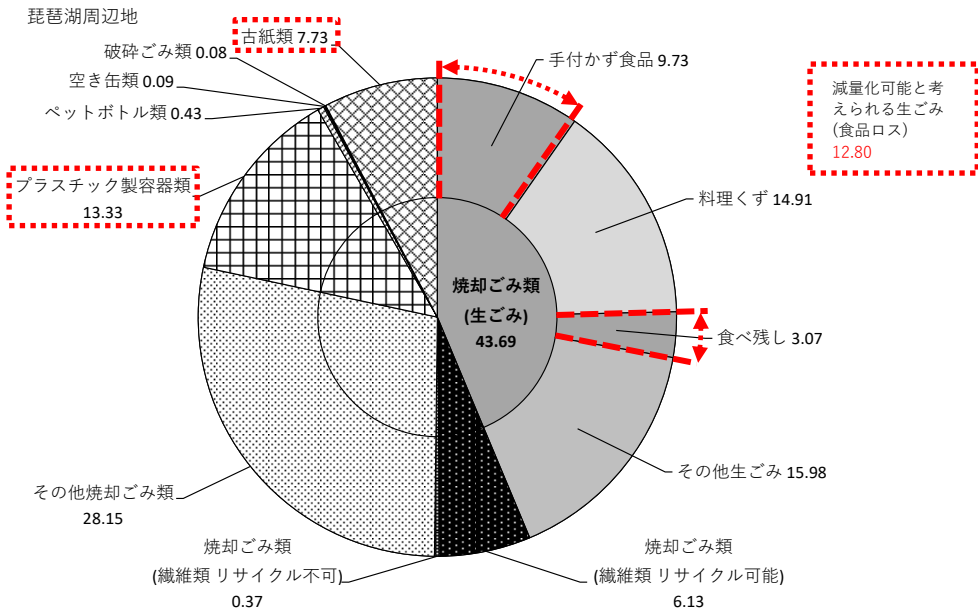


図 2-4(1) 家庭系焼却ごみ調査結果 (地域別) 1/2

表 2-4(2) 家庭系焼却ごみ調査結果（地域別）2/2

大分類	中分類	小分類	No.	駅周辺地	駅近隣地	大学周辺地
焼却 ごみ類	生ごみ	手付かず食品	1	8.03	7.23	4.03
		料理くず	2	16.16	9.57	8.24
		食べ残し	3	3.75	5.45	7.94
		その他	4	7.12	4.15	4.23
	紙くず	紙くず（リサイクル不可）	5	20.21	16.97	15.28
		紙おむつ	6	7.45	6.75	2.22
	ゴム・ 皮革製品、 繊維類	ゴム・皮革製品	7	0.02	0.26	0.16
		繊維類（リサイクル可能）	8	3.69	0.77	0.83
		繊維類（リサイクル不可）	9	0.18	1.23	4.80
		プラスチック容器包装を除くプラスチック	10	0.39	0.84	0.16
		在宅医療廃棄物	11	0.00	0.00	0.00
		その他	12	6.81	7.27	3.10
プラス チック 製容器 類	包装類	13	0.04	0.15	0.19	
	袋・ラップ類	14	9.21	7.81	9.67	
	カップ・バック類	15	0.92	0.93	6.18	
	トレイ類	16	0.15	0.17	0.68	
	その他（チューブ類 ボトル類 ふた・キャップ類）	17	1.89	1.82	3.42	
	リサイクル不可（簡易な洗浄でリサイクル可）	18	1.12	2.15	2.23	
	レジ袋	19	0.61	1.35	1.26	
	ペットボトル類	20	0.06	0.56	1.55	
	空き缶類	21	0.00	0.06	0.96	
	飲・食料用ガラスびん類	22	0.45	0.00	0.13	
破碎 ごみ類	小型金属類	23	0.00	0.00	0.00	
	小型家電製品	24	0.00	0.00	0.00	
	硬質プラスチック製品	25	0.00	0.00	0.00	
	その他	26	0.01	0.48	0.24	
	陶器・ガラス類	27	2.38	0.08	0.00	
古紙類	新聞・広告	28	3.47	2.94	1.90	
	段ボール	29	0.07	3.18	0.76	
	雑誌・雑紙	30	5.78	17.64	19.84	
	その他（電池・ライター）	31	0.03	0.19	0.00	
合計		—	—	100	100	100

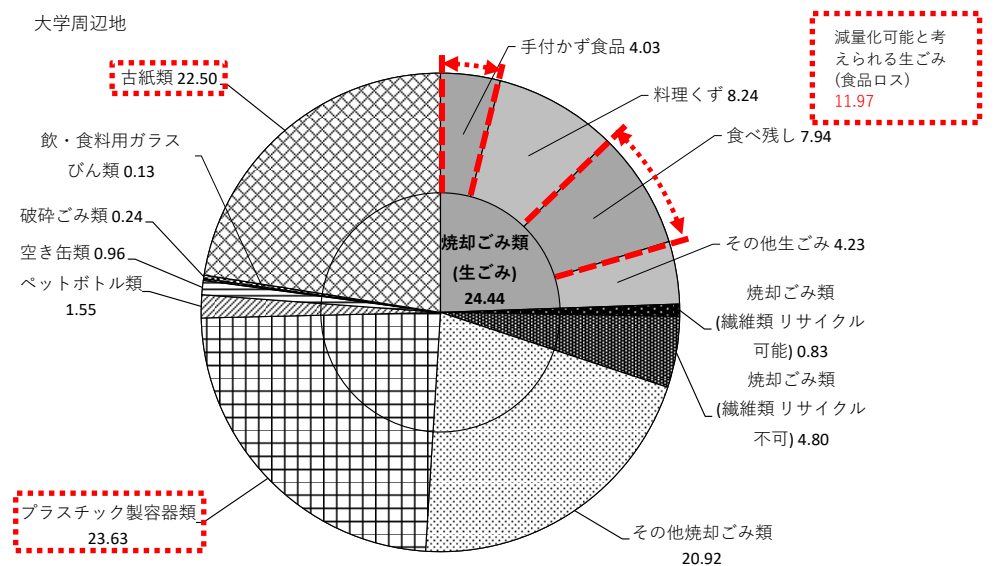
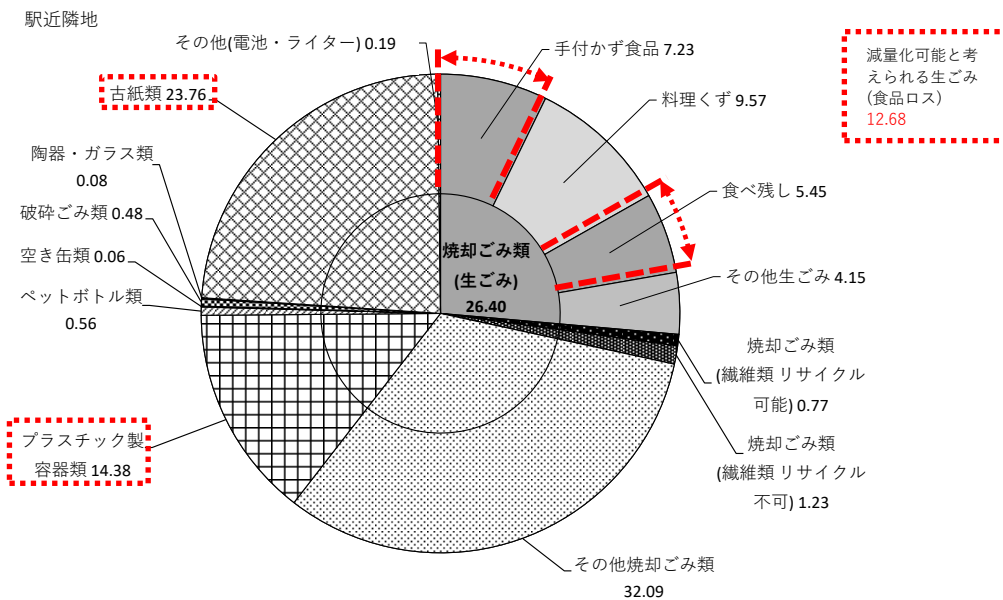
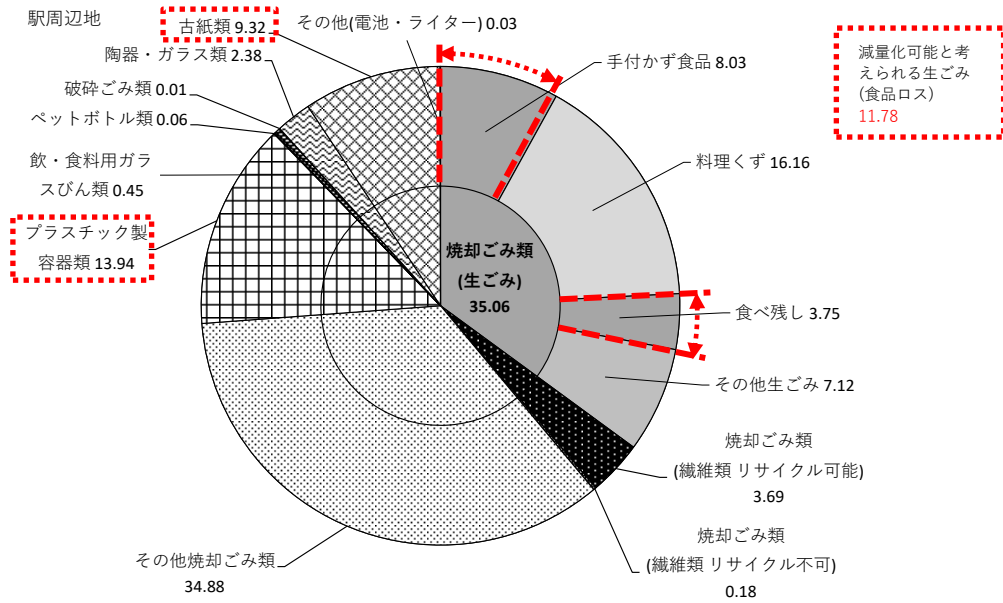


図 2-4(2) 家庭系焼却ごみ調査結果 (地域別) 2/2

② 家庭系破碎ごみ類（地域別）

表 2-5 家庭系破碎ごみ調査結果（地域別）

大分類	中分類	小分類	No.	低層住宅地	中高層住宅地	大学周辺地
焼却 ごみ類	生ごみ	手付かず食品	1	0.00	0.00	0.00
		料理くず	2	0.00	0.00	0.00
		食べ残し	3	0.00	0.00	0.00
		その他	4	0.00	0.00	0.00
	紙くず	紙くず（リサイクル不可）	5	0.00	0.00	0.00
		紙おむつ	6	0.00	0.00	0.00
	ゴム・ 皮革製品、 繊維類	ゴム・皮革製品	7	0.32	0.00	0.80
		繊維類（リサイクル可能）	8	0.00	0.00	0.00
		繊維類（リサイクル不可）	9	0.00	0.00	0.00
	プラスチック容器包装を除くプラスチック	10	3.72	0.00	1.04	
	在宅医療廃棄物	11	0.00	0.00	0.00	
	その他	12	8.32	0.00	0.88	
プラス チック 製容器 類	包装類	13	0.00	0.00	0.00	
	袋・ラップ類	14	0.00	0.00	0.00	
	カップ・パック類	15	0.00	0.00	0.00	
	トレイ類	16	0.00	0.00	0.00	
	その他（チューブ類 ボトル類 ふた・キャップ類）	17	0.80	0.00	0.00	
	リサイクル不可（簡易な洗浄でリサイクル可）	18	0.00	0.00	0.00	
	レジ袋	19	0.00	0.48	0.00	
ペットボトル類	20	0.00	0.00	0.00		
空き缶類	21	0.18	0.00	0.00		
飲・食用用ガラスびん類	22	0.00	0.00	0.00		
破碎 ごみ類	小型金属類	23	16.20	23.85	13.56	
	小型家電製品	24	41.97	28.25	51.37	
	硬質プラスチック製品	25	18.21	26.57	22.46	
	その他	26	8.85	20.34	8.45	
陶器・ガラス類	27	1.40	0.00	1.44		
古紙類	新聞・広告	28	0.00	0.00	0.00	
	段ボール	29	0.00	0.00	0.00	
	雑誌・雑紙	30	0.03	0.51	0.00	
その他（電池・ライター）	31	0.00	0.00	0.00		
合計	—	—	100	100	100	

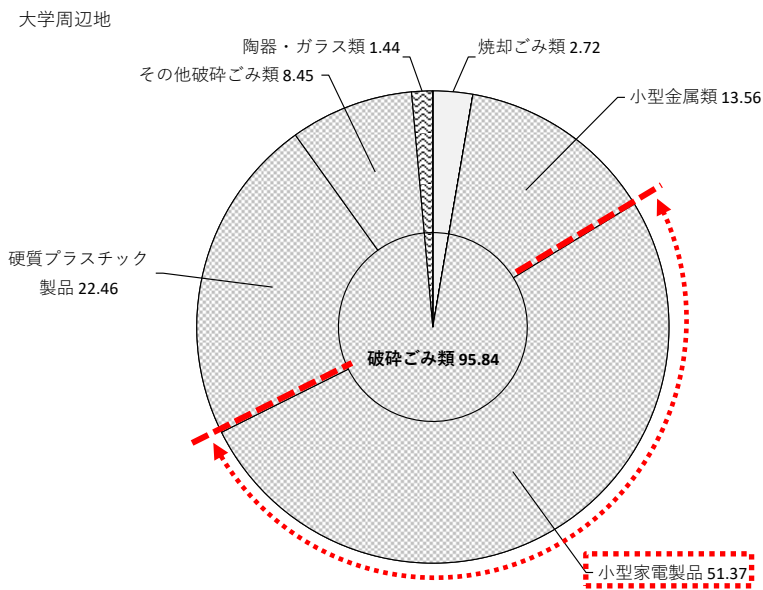
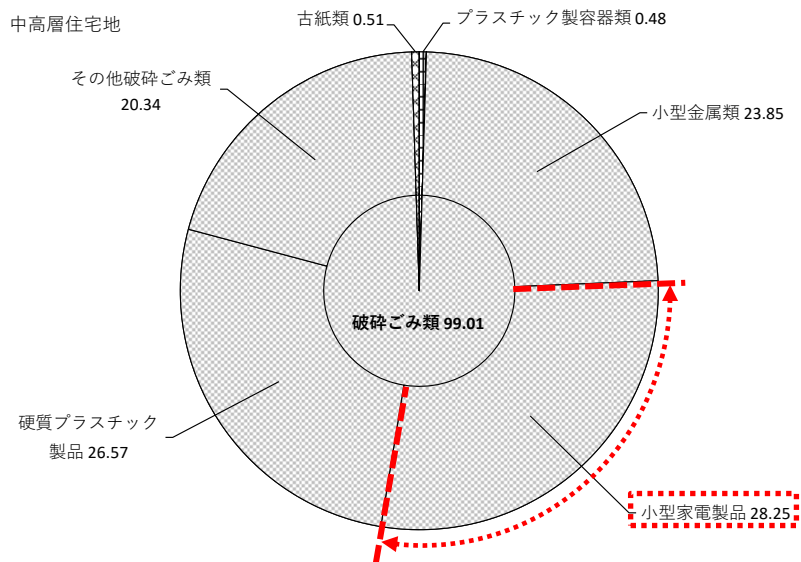
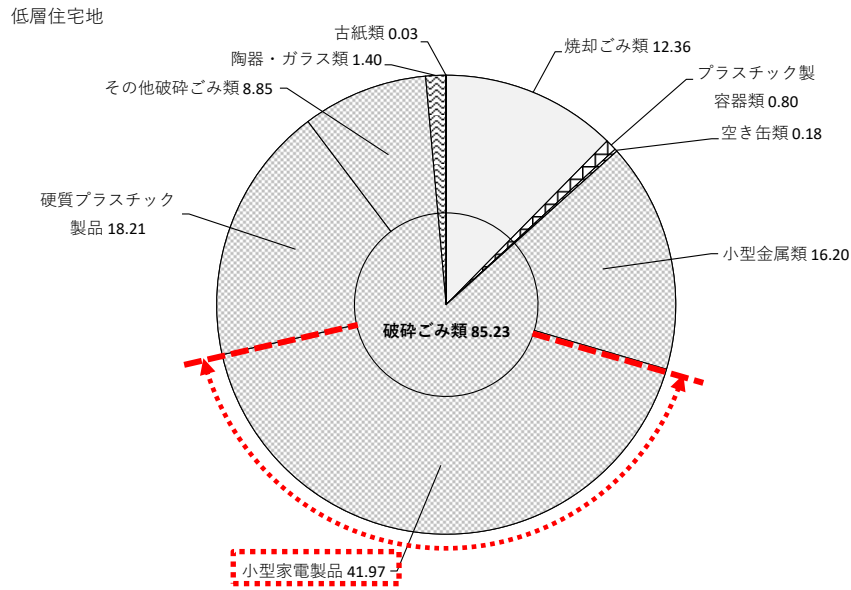


図 2-5 家庭系破碎ごみ調査結果 (地域別)

③ 事業系一般廃棄物

表 2-6 事業系一般廃棄物調査結果（地域別）

大分類	中分類	小分類	No.	駅周辺地	工業系事業所 密集地
焼却 ごみ類	生ごみ	手付かず食品	1	17.38	0.36
		料理くず	2	6.66	0.13
		食べ残し	3	2.90	0.34
		その他	4	4.96	0.51
	紙くず	紙くず（リサイクル不可）	5	29.02	34.74
		紙おむつ	6	7.33	0.00
	ゴム・ 皮革製品、 繊維類	ゴム・皮革製品	7	2.57	0.10
		繊維類（リサイクル可能）	8	0.00	0.72
		繊維類（リサイクル不可）	9	2.24	32.31
		プラスチック容器包装を除くプラスチック	10	0.13	0.47
		在宅医療廃棄物	11	0.00	0.00
		その他	12	1.60	9.37
プラス チック 製容器 類	包装類	13	0.10	0.02	
	袋・ラップ類	14	9.07	8.19	
	カップ・パック類	15	0.77	0.11	
	トレイ類	16	0.14	0.00	
	その他（チューブ類 ボトル類 ふた・キャップ類）	17	1.24	0.72	
	リサイクル不可（簡易な洗浄でリサイクル可）	18	0.59	0.58	
	レジ袋	19	0.27	0.36	
	ペットボトル類	20	0.15	0.03	
	空き缶類	21	0.11	0.00	
	飲・食料用ガラスびん類	22	0.38	0.00	
破碎 ごみ類	小型金属類	23	0.00	0.00	
	小型家電製品	24	0.00	0.00	
	硬質プラスチック製品	25	0.00	0.00	
	その他	26	0.03	0.04	
	陶器・ガラス類	27	0.25	0.00	
古紙類	新聞・広告	28	0.20	0.68	
	段ボール	29	2.17	0.64	
	雑誌・雑紙	30	9.74	9.58	
	その他（電池・ライター）	31	0.00	0.00	
合計		—	—	100	100

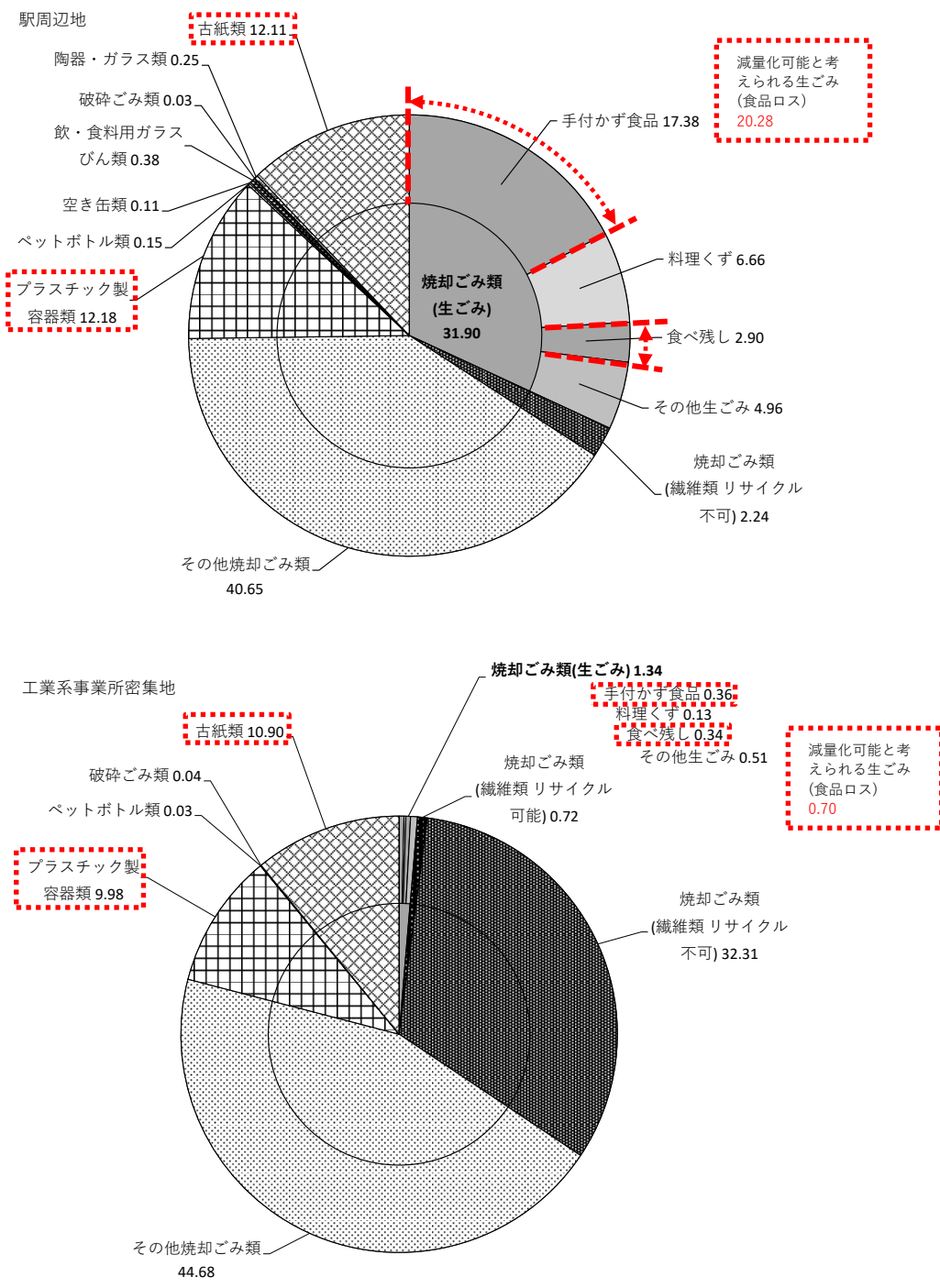


図 2-6 事業系一般廃棄物調査結果 (地域別)

3) 指定ごみ袋 1 袋当たりの投入容量調査

投入容量調査は、最も排出量の多い家庭系焼却ごみ類を対象に、市の特徴である小規模世帯や単身世帯が多い中で、現行の指定ごみ袋の大きさが適合しているか、その排出状況を把握します。

試料は分類前の指定ごみ袋に対し、6 地域で延べ 168 袋を調査しました。

家庭系焼却ごみ類の指定ごみ袋 1 袋当たりの投入容量結果を表 3-1 及び図 3-1 に示します。

表 3-1 投入容量調査結果（地域別）

	全体	琵琶湖周辺地	低層住宅地	中高層団地	駅周辺地	駅近隣地	大学周辺地
検体数（袋）	168	25	28	30	29	25	31
最小（L）	17	21	18	20	22	18	17
最大（L）	53	53	48	42	45	39	35
平均（L）	31.6	32.9	30.5	34.1	33.1	31.5	27.8

① 投入容量調査（全体）

表 3-1 及び図 3-1 より、家庭系焼却ごみ類の投入容量は、最小 17L～最大 53L、平均値は 31.6L でした。

10L ごとの分布は 30L 超～40L 以下が 58.9%と最も高く、次いで 20L 超～30L 以下が 30.4%となり、およそ 9 割がこの容量で排出されていました。

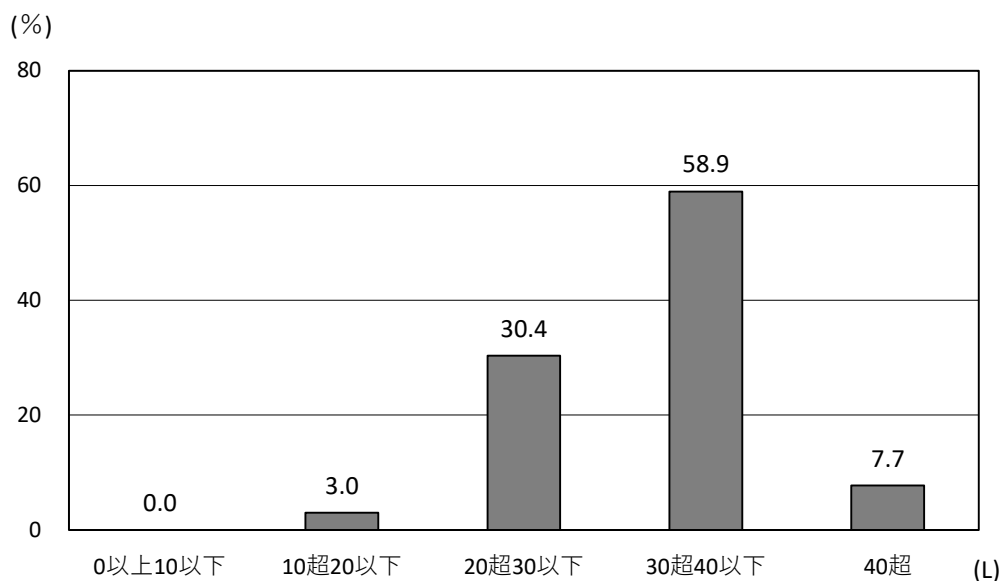


図 3-1 指定ごみ袋 1 袋当たりの投入容量結果（全体）

4) ごみ組成調査状況写真

① 家庭系焼却ごみ類

生ごみ 手付かず食品



生ごみ 料理くず



生ごみ 食べ残し



プラスチック製容器類 袋・ラップ類



古紙類 雑誌・雑紙



② 家庭系破碎ゴミ類

破碎ゴミ類 小型金属類



破碎ゴミ類 小型家電製品



破碎ゴミ類 硬質プラスチック製品



破碎ゴミ類 その他



③ 事業系一般廃棄物

生ごみ 手付かず食品



生ごみ 料理くず



生ごみ 食べ残し



プラスチック製容器類 袋・ラップ類



古紙類 雑誌・雑紙

